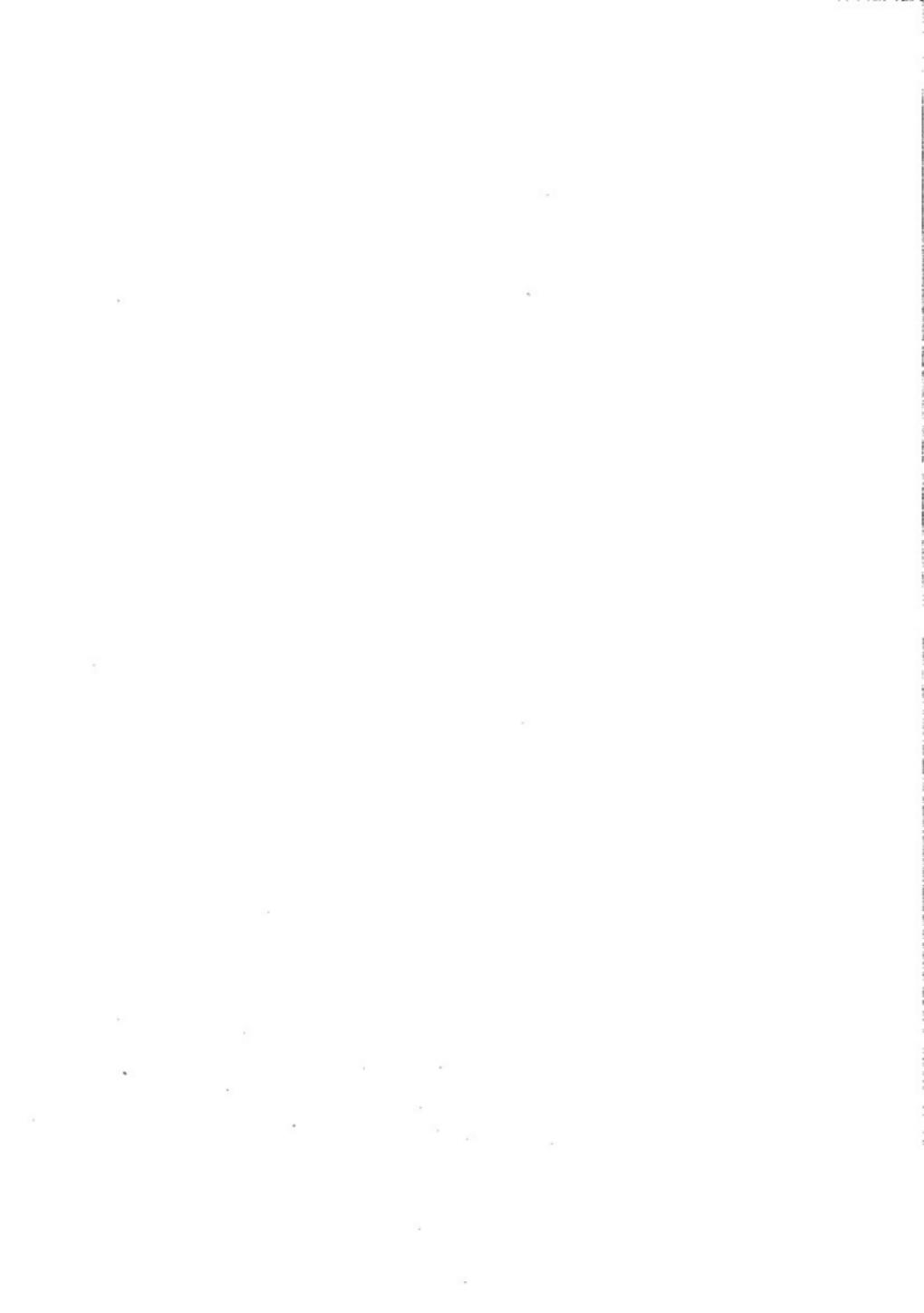


**八尾市文化財調査報告50
平成16年度国庫補助事業**

八尾市内遺跡平成16年度発掘調査報告書

2005年3月

八尾市教育委員会



八尾市内道路平成16年度発掘調査報告書 正誤表	
頁・行	誤
4 頁 35行	含んいる。
6 頁 12行	られていた、
7 頁 10行	機
29頁 36行	共同住宅建設に伴う遺構確認調査
抄録	個人住宅建設に伴う遺構確認調査
抄録	2.25 個人住宅建設に伴う遺構確認調査
	4 個人住宅建設に伴う発掘調査
	4 個人住宅建設に伴う発掘調査

はじめに

八尾市は、大阪府のほぼ中央部に位置し、生駒山地の山麓部から大阪平野の東部にかけての範囲に市域を有しております。古くは、河内湖、河内潟に面し、旧大和川をはじめとする多くの河川によって、肥沃な平野が形成されてきました。旧石器時代から連綿と遺跡が形成されており、全国的にも有数な遺跡の宝庫と呼べる地域であります。

本書は、当教育委員会が平成16年度に(財)八尾市文化財調査研究会に委託して実施した市内の埋蔵文化財包蔵地における個人住宅等の建設や民間の各種事業の工事等に伴う遺構確認調査の成果を収めております。

今後、市内の貴重な埋蔵文化財が、市民の方々をはじめ、多くの人々に親しまれるよう、保存・活用していくことが重要な課題となるでしょう。本書が、その役割の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査に際し、ご理解とご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成17年3月

八尾市教育委員会

教育長 森 卓

例 言

1. 本書は平成16年度の国庫補助事業(市内遺跡)として、八尾市内で実施した発掘調査の報告書である。
平成15年度実施分についても一部掲載している。
2. これらの調査は、八尾市教育委員会が(財)八尾市文化財調査研究会に委託して実施したものである。
3. 本書の作成にあたっては、(財)八尾市文化財調査研究会の各調査担当者(岡田清一・高萩千秋・成海佳子・西村公助・原田昌則・樋口 煉)が執筆を行い、執筆分担は各報告の文末に記した。
4. 本書の編集は、八尾市教育委員会生涯学習部文化財課において行った。

本文目次

調査地位置図 I ~ IV

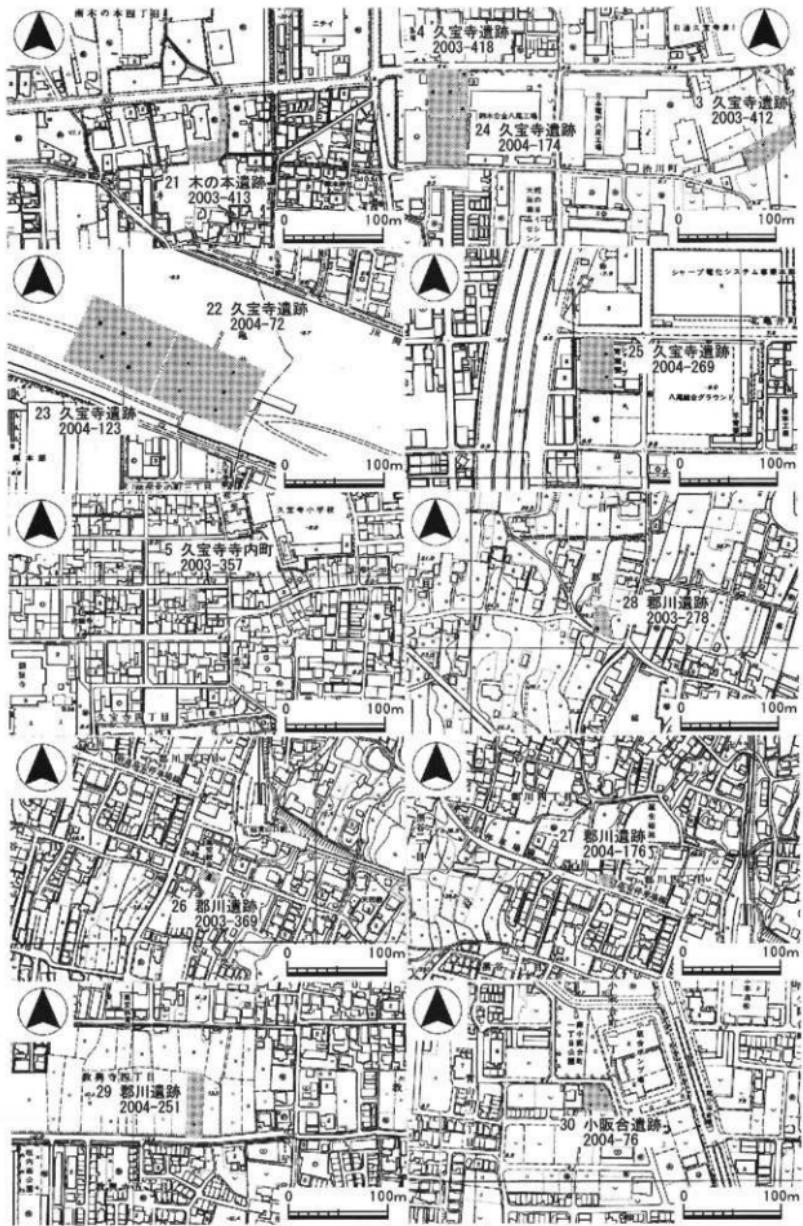
1	老原遺跡(2003~249)の調査	1
2	恩智遺跡(2003~388)の調査	1
3	久宝寺遺跡(2003~412)の調査	1
4	久宝寺遺跡(2003~418)の調査	2
5	久宝寺寺内町(2003~357)の調査	3
6	東郷遺跡(2003~368)の調査	3
7	東郷遺跡(2003~464)の調査	4
8	水越遺跡(2003~356)の調査	5
9	八尾寺内町(2003~450)の調査	6
10	弓削遺跡(2003~319)の調査	6
11	跡部遺跡(2004~34)の調査	6
12	老原遺跡(2004~26)の調査	7
13	太田遺跡(2003~400)の調査	7
14	太田遺跡(2003~330)の調査	8
15	恩智遺跡(2004~15)の調査	8
16	恩智遺跡(2003~473)の調査	9
17	恩智遺跡(2003~442)の調査	9
18	恩智遺跡(2004~201)の調査	10
19	恩智遺跡(2004~172)の調査	10
20	楽音寺遺跡(2004~188)の調査	11
21	木の本遺跡(2003~413)の調査	11
22	久宝寺遺跡(2004~72)の調査	11
23	久宝寺遺跡(2004~123)の調査	12
24	久宝寺遺跡(2004~174)の調査	14
25	久宝寺遺跡(2004~269)の調査	14
26	郡川遺跡(2003~369)の調査	15
27	郡川遺跡(2004~176)の調査	18
28	郡川遺跡(2003~278)の調査	18
29	郡川遺跡(2004~251)の調査	19
30	小阪合遺跡(2004~76)の調査	19
31	成法寺遺跡(2004~119)の調査	20
32	神宮寺遺跡(2004~291)の調査	20
33	太子堂遺跡(2004~183)の調査	22
34	大正橋遺跡(2004~164)の調査	22
35	東郷遺跡(2004~16)の調査	23
36	東郷遺跡(2004~79)の調査	24
37	東郷遺跡(2004~141)の調査	24
38	東郷遺跡(2004~128)の調査	25
39	東郷遺跡(2004~226)の調査	25
40	東郷遺跡(2004~300)の調査	26
41	中田遺跡(2004~46)の調査	26
42	中田遺跡(2004~135)の調査	27
43	中田遺跡(2004~160)の調査	27
44	中田遺跡(2004~295)の調査	28
45	水越遺跡(2004~37)の調査	28
46	美園遺跡(2003~487)の調査	29
47	矢作遺跡(2004~85)の調査	29
48	矢作遺跡(2004~154)の調査	30
49	矢作遺跡(2004~302)の調査	31
50	山賀遺跡(2004~124)の調査	31
51	弓削遺跡(2004~259)の調査	32

図版目次

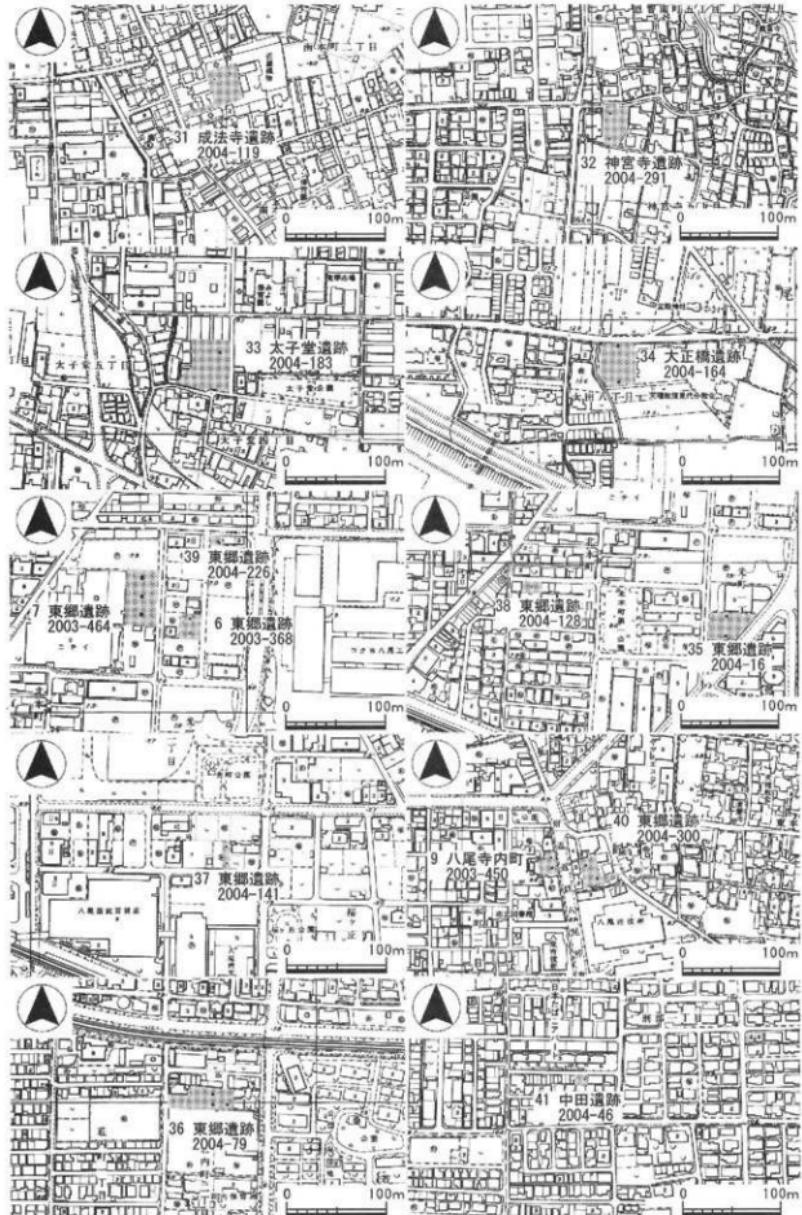
図版 1	1	老原2003~249
	2	恩智2003~388
	3	久宝寺2003~412
	4	久宝寺2003~418
図版 2	5	久宝寺寺内町2003~357
	6	東郷2003~368
	7	東郷2003~464
	8	水越2003~356
図版 3	9	八尾寺内町2003~450
	10	弓削2003~319
	11	跡部2004~34
	12	老原2004~26
図版 4	13	太山2003~400
	14	太田2003~330
	15	恩智2004~15
	16	恩智2003~473
図版 5	17	恩智2003~442
	18	恩智2004~201
	19	恩智2004~172
	20	楽音寺2004~188
図版 6	21	木の本2003~413
	22	久宝寺2004~72
	23	久宝寺2004~123
	24	久宝寺2004~174
図版 7	25	久宝寺2004~269
	26	郡川2003~369
	27	郡川2004~176
	28	郡川2003~278
図版 8	29	郡川2004~251
	30	小阪合2004~76
	31	成法寺2004~119
	32	神宮寺2004~291
図版 9	33	太子堂2004~183
	34	大正橋2004~164
	35	東郷2004~16
	36	東郷2004~79
図版10	37	東郷2004~141
	38	東郷2004~128
	39	東郷2004~226
	40	東郷2004~300
図版11	41	中田2004~46
	42	中田2004~135
	43	中田2004~160
	44	中田2004~295
図版12	45	水越2004~37
	46	美園2003~487
	47	矢作2004~85
	48	矢作2004~154
図版13	49	矢作2004~302
	50	山賀2004~124
	51	弓削2004~259
	8	水越2003~356出土遺物
図版14	16	恩智2003~473出土遺物
	26	郡川2003~369出土遺物
	32	神宮寺2004~291出土遺物



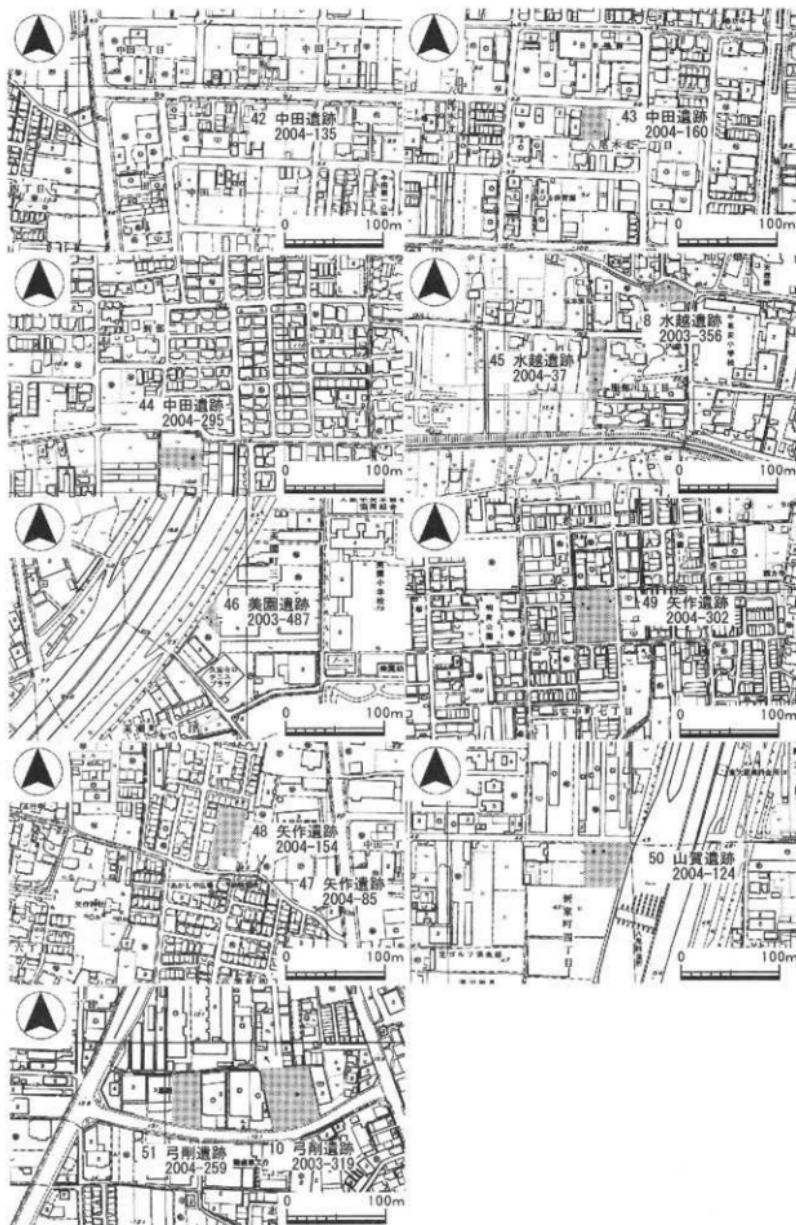
第1図 調査地位置図 I (S=1/5000)



第2図 調査地位置図Ⅱ (S=1/5000)



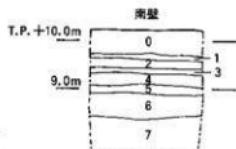
第3図 調査位置図III (S=1/5000)



第4図 調査位置図IV (S=1/5000)

1 老原遺跡(2003-249)の調査

1. 調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市老原3丁目62番の1の一部、62番2・6
3. 調査期間：平成16年1月21日
4. 調査方法：建築予定地内の東寄りで、基礎工事部分にあたる地点に3m四方の調査区を1箇所設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.+10.2m前後)下約2.5mまでの掘削を実施した。



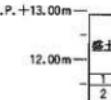
第5図 地層断面図(S=1/100)

5. 調査概要：現地表から0.5m前後は盛土(第0層)、その下に0.15m前後の近現代にあたる耕作土層(1層-5B2/1青黒色シルト)が堆積する。その下層は、第2層-5G3/1暗緑灰色シルト、第3層-7.5YR7/4にぶい橙色砂混じりシルト(中世とみられる土師器片を若干含む)、第4層-10YR8/6黄橙色シルト、第5層-5YR7/6橙色シルト(管状マンガンがみられる)で、第3～5層には酸化鉄分が含まれ、各層ともにフラットな様相(水平堆積)を呈する。さらにその下層は、第6層10BG7/1明青灰色砂質シルト、第7層-N7/0灰白色砂質シルト～細粒砂といった水成層で、第7層からの湧水が著しいものとなつた。また、壁面も崩壊はじめたため、当初の予定掘削深度は現地表下3mまでであったが、現地表下2.5mの時点で調査を断念した。

6. まとめ：今回の調査では、現地表下約0.6～1.4m(T.P.+約9.6～8.8m)間にあたる第3～5層が、近隣における調査成果から平安時代～室町時代にあたる堆積層と思われる。また、遺物の稀少さと堆積状況から勘案して、当該期の生産域に比定されるものと判断する。
(岡田清一)

2 恩智遺跡(2003-388)の調査

1. 調査名：分譲住宅建築に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市恩智南町1丁目5番
3. 調査期間：平成16年3月5日
4. 調査方法：調査区1箇所を設定して、現地表以下1.8mまでの掘削を行い、遺構・遺物の状況を確認した。高さの基準は、北東60mの茶之木橋東詰(八尾市発行1/2500の地図に記載の値=T.P.+13.40m)から移動した。



1 2.5Y5/4黄褐色細～
中粒砂混粘土質シルト
2 2.5Y5/6暗灰黄色中～
粗粒砂混砂質シルト

第6図 地層断面図(S=1/100)

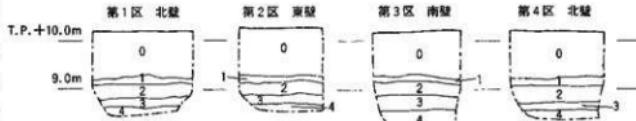
5. 調査概要：調査地の現状は共同住宅を取り壊した更地で、現地表面の高さはT.P.+13m前後である。盛土は現地表下1.2(T.P.+11.7)mまでなされていた。以下には、第1層2.5Y5/4黄褐色細～中粒砂混粘土質シルト(層厚0.2～0.25m)、第2層2.5Y5/2暗灰黄色中～粗粒砂混砂質シルト(層厚0.4m以上)の2層が堆積しているのを確認した。盛土は軟弱で、コンクリートやブロック、人頭大からそれ以上の自然石等が多量に埋められており、壁面は崩壊した。第1・2層ともに酸化鉄が斑紋状にみられ、第1層には炭が少量含まれている。第2層中には、陶磁器の極小破片が極少量含まれていた。

6. まとめ：盛土が厚く軟弱であったため、近現代の地層までしか確認できなかった。
(成海佳子)

3 久宝寺遺跡(2003-412)の調査

1. 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市渋川町1丁目27番
3. 調査期間：平成16年2月9日
4. 調査方法：人孔部分に規模2.0×2.0mの調査区を4箇所設定した。西側を第1区、中央北側を第2区、中央南側を第3区、東側を第4区と呼称する。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南東側道路上T.P.+10.4m)を使用した。
5. 調査概要：【第1～4区】現地表下約2.0mまでに5層の堆積を確認した。0層は盛土でコンクリートなどの産業廃棄物が埋められていた。1層はN3/0暗灰色細粒砂混粘土で、旧耕作土である。2層は

SB5/1青灰色粗粒砂泥
粘土、3層は10YR5/1
褐灰色粗粒シルト混粘
土、4層は10YR4/4褐色
粗粒シルト混粘土で
ある。遺構の検出およ
び遺物の出土はなかっ
た。
(西村公助)



第7図 地層断面図 (S=1/100)

参考文献

- 岡田清一 1997「II 久宝寺遺跡(第17次調査)」『久宝寺遺跡 財団法人 八尾市文化財調査研究会報告55』
財団法人 八尾市文化財調査研究会

4 久宝寺遺跡(2003-418)の調査

1. 調査名：工場建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市南久宝寺1丁目23番、24番、25番の一部、26番の一部

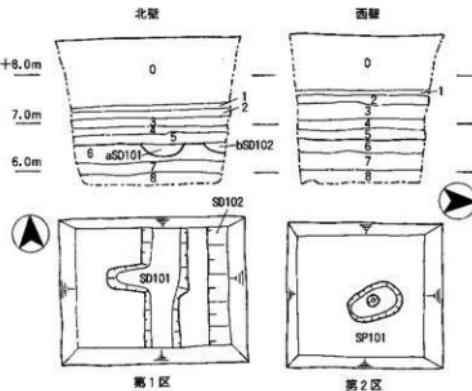
3. 調査期間：平成16年3月25日

4. 調査方法：建築予定地内に 3×3 m の調査区を 2箇所(西側-第1区、東側-第2区)設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.+8.7~8.8m)下約3mまでの掘削を実施した。

5. 調査概要：【層序】第0層：盛土。第1層：5B2/1青黒色シルト。近・現代の作土層。第2層：7.5GY4/1暗緑灰色シルト。第3層：5B3/1暗青灰色砂礫混じりシルト。第4層：7.5YR6/3にぶい褐色シルト。第5層：7.5YR4/3灰褐色シルト。古墳時代中期～奈良時代にかけての遺物が含まれる。第6層：10YR3/1黒褐色シルト。両調査区ともに本層上面(T.P.+6.5~6.7m付近)で、飛鳥時代末～奈良時代前半頃に比定される遺構を検出した。第7層：10YR4/1褐色粘土質シルト。第2区では、古墳時代前期頃に比定される古式土師器(高杯)の破片が混入。第8層：5B6/1青灰色細粒砂。本層は付近で実施された遺構確認調査から古墳時代初頭以前の河川堆積層と考えられる。

【検出遺構】<第1区>現地表下2.1m(T.P.+6.5m)で、溝2条(S D101・102)を検出した。いずれも南北方向に伸びる溝である。S D101は、幅0.8m前後・深さ0.2m前後を測る。埋土は暗青灰色粘土質シルトで、内部から須恵器壺の破片が出土した。S D102はS D101の東に隣接するもので、幅については掘方の東肩が調査区外に至るため不明で、深さについては検出部分で0.2m前後を測る。埋土は灰白色砂質シルトで、内部から土師器皿の破片が出土した。<第2区> 現地表下2.2m(T.P.+6.7m)で、柱穴1箇所(S P201)を検出した。北西～南東方向に長い隅丸長方形を呈する。規模は長径1.1m、短径0.7m、深さ0.3m(掘方0.1m・柱穴0.2m)を測る。埋土は灰褐色シルトで、内部から須恵器蓋杯の破片が出土した。

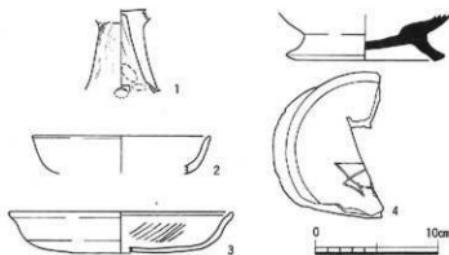
【出土遺物】出土遺物の中で固形化できたものは、第2区の第5層から出土した土師器高杯(1)、土師器皿(2・3)、須恵器壺(4)の4点であ



第8図 地層図および平面図 (S=1/100)

る。1は柱状部のみ残存で、スカシ孔が1箇所確認された。外面は縦方向の板ナナガが施される。古墳時代前期(布留式期)の所産と思われる。2・3のうち3の内面には放射状の暗文が施される。4の壺底部にはヘラ記号が確認される。2~4は、形態および調整から飛鳥時代末~奈良時代前半に属する。

6.まとめ:第2区で検出した柱穴について、周囲で瓦の破片が見られることも含めて寺院あるいは官衙等の建物跡が示唆される。
(岡田)



第9図 第2区第5層出土遺物実測図 (S=1/4)

5 久宝寺寺内町(2003-357)の調査

1. 調査名:個人住宅建築に伴う遺構確認調査

2. 調査地:八尾市久宝寺3丁目288番

3. 調査期間:平成16年3月4日

4. 調査方法:調査区2箇所(南を1区・北を2区と呼ぶ)を設定して、現地表以下1.5~1.6mまでの掘削を行い、遺構・遺物の状況を確認した。高さの基準は、南西170mの顯寺町境内にある大阪府の水準(T.P.+9.38m)から移動した。

5. 調査概要:調査地の旧状は住宅を取り壊した更地で、現地表面の高さはT.P.+8.7m前後である。1・2区ともに1~8層の地層が確認できた。このうち、1~3層は近世末期~現代の住宅立替に伴う整地等に伴うもので、両調

査区でいわゆる「ごみ穴」状の掘り込みが認められた。これらの層中からは、食器(染付け椀・小杯、擂鉢)、巴文軒丸瓦等が出土している。4層は炭を多量に含む層で、厚さ0.15~0.2m前後、上面はT.P.+8.0m前後を測る。5・6層は極細~中粒砂からなる水成層で、6層には水平ラミナが見られるが、5層は6層中にブロックが多量に混入し、硬くしまっている。6層最下(7層上面)からは、石(長辺40cm・短辺30cm・厚さ10cm)が出土したが、原位置を保っていたかどうかは不明である。7層は既往調査で検出している石山合戦に伴う焼土層で、厚さ0.1~0.15mを測る。最下の8層は、既往調査で上面が室町時代の遺構面と確認されている層である。上面はT.P.+7.2~7.4mで北(2区)が低い。

6.まとめ:6層は石山合戦(1570~1580年)後の河川流路と考えられ、5層によって埋め立て・整地されているものと考えられる。
(成海)

参考文献

- ・岡田清一 1999「11. 久宝寺寺内町遺跡第1次調査(KHC98-1)」「平成10年度 (財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会

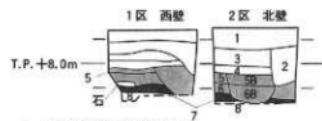
6 東郷遺跡(2003-368)の調査

1. 調査名:共同住宅建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地:八尾市光町1丁目17、20

3. 調査期間:平成16年2月3日

4. 調査方法:建築予定地内に3m四方の調査



- 1 10YR5/2灰褐色砂質シルト
- 2 10YR5/2灰褐色砂質シルトに10YR6/6明黄褐色粘土質シルト
- 3 7.5Y6/2灰オリーブ褐色粘粒砂に10Y6/6明黄褐色粘土質シルトのブロック
- 4 7.5Y6/2灰オリーブ褐色粘粒砂に炭を含むブロック
- 5 7.5Y6/3オリーブ黄色~10Y6/6明黄褐色粘土質シルトに10Y6/6明黄褐色粘土質シルトのブロック
- 6 7.5Y6/3オリーブ黄色~10Y6/6明黄褐色粘土質シルトのブロック
- 7 10YR6/6明黄褐色粘粒砂~砂質シルト(漬土)
- 8 2.5Y5/1オリーブ灰色粘土質シルト

第10図 地層断面図 (S=1/100)

区を2箇所（北—第1区、南—第2区）設定し、工事深度に準じて現地表（T.P.+7.4～7.8m）下約2.5～3mまでを掘削した。

5. 調査概要：【層序】第0層：擾乱および盛土。第1層：7.5YR3/1黒褐色シルト。第1区に遺存する近・現代の旧耕作土層にあたる。第2層：5YR4/2灰褐色砂礫混じりシルト。第1区で確認した中世(瓦器・土師器片少量検出)に相当する堆積層である。第3

層：7.5YR6/3にぶい褐色シルト。時期不明の土師器片を含む。第4層：7.5YR8/6浅黄褐色シルト～極細粒砂。第1区で確認した酸化鉄分を多量に含む堆積層である。第5層：5YR4/2灰褐色シルト。第1区では、古式土師器片(古墳時代前期)を検出した。第6層：5YR5/1褐灰色シルト。第1区で確認。第7層：2.5YR4/6赤褐色シルト。第1区で確認した多量の酸化鉄分を含む堆積層である。第8層：5BG3/1暗青灰色粘土質シルト。第1区で確認した堆積層で、上半部に携持が観察されることと、一部に畦畔状の起伏が見られる状況から水田を想定させる。時期は不明。第9層：5PB5/1青灰色粘土質シルト。第10層：10BG7/1明青灰色砂質シルト。第1区で確認。第11層：N7/0灰白色極細粒砂～中粒砂(層厚0.5m以上)。湧水が著しい。

6.まとめ：今回の調査では、現地表下1.2～1.4m(T.P.+6.6～6.4m)間で中世、その下層の現地表下1.6～1.8m(T.P.+6.2～6.0m)間で古墳時代前期の相当層と推定される地層を確認した。また、第1区では、さらにそれより下層の現地表下約2.2m(T.P.+5.8m)付近で、水田遺構の可能性がある堆積層を確認するに至った。

(岡田)

7 東郷遺跡(2003-464)の調査

1. 調査名：有料老人ホーム建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市北本町2丁目201番、202番2、203番2

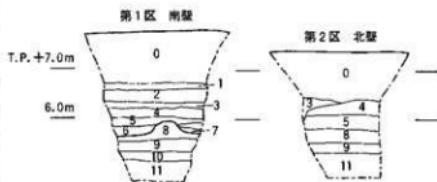
3. 調査期間：平成16年3月17日

4. 調査方法：建物基礎部分に3.0×3.0mの調査区を3箇所設定した。北側から第1区、第2区、第3区と呼称する。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南東側道路上T.P.+7.6m)を使用した。

5. 調査概要：【第1～3区】現地表下約2.7mまでに9層の堆積を確認した。0層は盛土でコンクリートなどの産業廃棄物が埋められていた。1層はN3/0暗灰色細粒砂混粘土で、旧耕作土である。2層は5BG5/1青灰色細粒シルト質粘土、3層は10YR7/1灰白色細粒砂混粘土、4層はN6/0灰色粗粒砂混粘土、5層は10YR3/3暗褐色粗粒シルト質粘土、6層は7.5YR4/2灰褐色粗粒シルト、7層は7.5YR5/2灰褐色粘土、8層は5B5/1青灰色細粒シルト、9層は10YR6/1褐灰色粗粒砂である。第1区の9層上面では西へ向って緩やかに下がる落ち込み(A層)を確認した。埋土はN3/0暗灰色細粒シルト質粘土で、炭化物を含みいる。

6.まとめ：9層上面から切り込む落ち込みは、人为的に埋めた痕跡ではなく、埋土内の炭化物は植物が腐食したものと思われることから、自然堆積層と考えたい。

(西村)



第11図 地層断面図 (S=1/100)



第12図 地層断面図 (S=1/100)

8 水越遺跡(2003-356)の調査

1. 調査名：グループホーム建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市山畠1番地

3. 調査期間：平成16年1月15日

4. 調査方法：建築予定地内の基礎工事部分にあたるところに南北3m×東西2.5mの調査区を3箇所(西から第1～3区)設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.+20m前後)下約2mまでの掘削を実施した。

5. 調査概要：【層序】3調査区とも現地表から1.2m前後は駐車場構築に伴う盛土(第0層)、その下に0.2m前後の近現代にあたる耕作土層(第1層)が堆積する。第1区および第3区では、その下層で近世に相当する層厚0.2m前後の堆積層(第4層)、さらにその下層に層厚0.3～0.4mを測る平安時代後期～鎌倉時代に相当する暗褐色を呈した堆積層(第6層)を確認した。本層内には当該期に比定される瓦器碗のほか土師器皿の小破片が含まれている。とくに第2区では破片ながら比較的密に包含されていた。また、第1区では当該期の生活面構築層にあたると見られる黄灰色を呈した堆積層(第7層)を確認した。本層は遺物を含まない粘性の強いシルト層で、上面には土壤化と遭構らしき窪みが確認できた。

【出土遺物】出土遺物の中で図化できたものは、第2区第6層出土の土師器皿1点(1)、第3区第6層出土の瓦器碗2点(2・3)、平瓦1点(4)の計4点である。1は平坦な底部から直立気味に立ち上がる口縁部を呈する。色調は茶褐色を呈する。2・3はいずれも和泉型で、見込みに格子状の暗文を有し、底部には断面三角形の高台が貼り付けられる。4は凸面に繩目タタキ、凹面に布目が見られる。以上は、12世紀末～13世紀初頭に位置づけられる。

6. まとめ：今回の調査では、現地表下約1.5～1.8m(T.P.+18.5～18.2m)間で平安時代後期～鎌倉時代にあたる堆積層を確認したが、本層を縦密に細分すると2～3層に分層でき、複数の時期に亘る生活面が捉えられそうである。当該期について当地周辺における既往の調査成果をみると、南西約100m地点で平成8年度に調査が実施されており、鎌倉時代以降の耕作土層が検出されている。しかし、当地一帯はまだまだ調査事例が少なく、未解明なところが多い。今回の遺構確認調査が今後当地周辺における調査の指標になるものと言える。

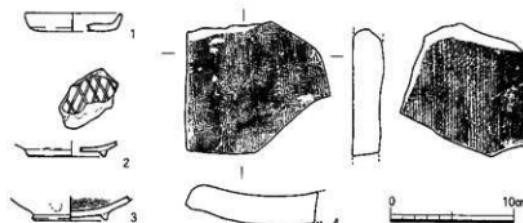
(岡田)

参考文献

- ・高秋千秋 1998「X種水越遺跡第6次調査(MS96-6)」『財団法人 八尾市文化財調査研究会報告60』財団法人 八尾市文化財調査研究会



第13図 地層断面図 (S=1/100)



第14図 出土遺物実測図 (第2区第6層-1、第3区第6層-2～4 S=1/4)

9 八尾寺内町(2003-450)の調査

- 調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市本町2丁目37,38,39,40-2,40-3,164-1
- 調査期間：平成16年3月19日

4. 調査方法：建物基礎部分に $3.0 \times 3.0\text{m}$ と $4.0 \times 4.0\text{m}$ の調査区を設定した。北側を第1区、南側を第2区と呼称する。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南東側道路上T.P.+8.9m)を使用した。

5. 調査概要：【第1・2区】現地表

下約3.0mまでに5層の堆積を確認した。0層は盛土で、以前の建物基礎であったコンクリートなどの産業廃棄物が埋められていた、1層は7.5YR4/6褐色細粒シルト混粘土、2層は5B5/1青灰色粘土、3層はN3/0暗灰色粘土質細粒砂、4層はN4/0灰色細粒砂～粗粒砂である。遺構、遺物の検出はなかった。

参考文献

- 原田昌則 1999「II 東郷遺跡(第37次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告64』(財)八尾市文化財調査研究会

10 弓削遺跡(2003-319)の調査

- 調査名：倉庫建設に伴う遺構確認調査

- 調査地：八尾市志紀町南2丁目125番・126番

- 調査期間：平成16年1月23日

4. 調査方法：建物基礎部分(規模 $3.0 \times 3.0\text{m}$ 面積 9 m^2)の調査を行った。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南西側道路上T.P.+13.1m)を使用した。

5. 調査概要：現地表下約1.6mまでに3層の堆積を確認した。1層は盛土でコンクリートなどの産業廃棄物が埋められていた。2層はN2/0黒色細粒砂混粘土で、旧耕作土である。3層は5B7/1明灰褐色細粒砂混粘土である。3層上面で調査を行ったが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。

参考文献

- 西村公助 1985「8弓削遺跡(第1次調査)」『昭和59年度事業概要報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告7 (財)八尾市文化財調査研究会

11 跡部遺跡(2004-34)の調査

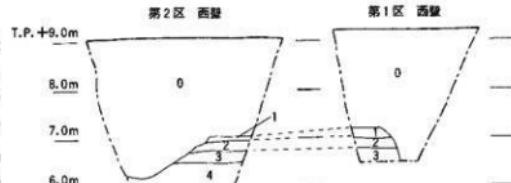
- 調査名：貸ビル建設に伴う遺構確認調査

- 調査地：八尾市跡部北の町3丁目3-15・3-16

- 調査期間：平成16年5月7日

4. 調査方法：建築予定地内の南北に2m四方の調査区を2箇所設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.+9.4~9.5m)下約2mまでの掘削を実施した。なお、北部を第1区、南部を第2区と呼称した。

5. 調査概要：【層序】現地表下約1.5mまでは、以前の建物基礎に伴う盛土およびカクランとなっている。この部分を周辺における調査成果と比較すると、近世～近・現代に比定される鳥糞や耕作土が確認されている。ところが、当地点においてそれらの堆積層は、現代の開発に伴って削平されたようであ



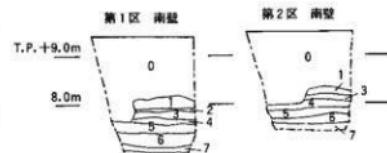
第15図 地層断面図 (S=1/100)

(西村)



第16図 地層断面図 (S=1/100)

(西村)



第17図 地層断面図 (S=1/100)

る。それより以下1.0mまでは、以下の層序に示すように水成層である褐色系のシルト層が連続と堆積する。第0層—盛土およびカクラン、第1層—7.5YR7/8黄橙色シルト、第2層—5YR6/6橙色砂礫。第1区にのみ存在する。第3層—10YR8/3浅黄橙色砂質シルト、第4層—7.5YR7/4にぶい橙色シルト、第5層—7.5YR6/1灰褐色シルト、第6層—5YR6/1褐灰色粘土質シルト。植物ラミナが確認される。第7層—10BG7/1明青灰色極細粒砂、第8層—5BG5/1青灰色砂質シルト。第1区で確認した地層である。

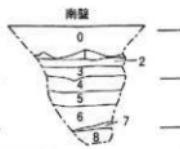
6.まとめ：今回の調査では、遺構・遺物は検出されなかった。当地点の近隣では、北側で道路築造に伴う調査が実施されている(KH98-24)。この調査成果と今回の対応する地層(第1～8層)を照合すると、時期的には古墳時代中期～室町時代といったかなり長期にわたる堆積層であることがわかる。因みに北側の調査では中世～近世にかけて、島畑や鶴溝といった生産域に関わる遺構が検出されているが、今回の遺構確認調査においてはこのような耕作を示唆する人為的な攪拌は見られなかった。(岡田)

12 老原遺跡(2004-26)の調査

1. 調査名：個人住宅建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市老原3丁目81番地
3. 調査期間：平成16年5月26日
4. 調査方法：建築予定地内に3m四方の調査区を1箇所設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.+10.1m)下約2.5mまでの掘削を実施した。

5. 調査概要：【層序】第0層—宅地造成に伴う盛土、第1層—5B3/1青黒色シルト。近現代の耕作土にあたる。第2層—7.5GY4/1暗緑灰色シルト、第3層—10YR7/3にぶい黄橙色シルト。中世頃の土器の小破片が若干含まれる。第4層—10YR8/3浅黄橙色シルト。マンガンの沈着が見られる。中世頃の土器の小破片が若干含まれる。第5層—7.5YR6/1灰褐色砂礫混じりシルト、第6層—5BG5/1青灰色粘土質シルト。植物遺体および炭酸鉄を含む。第7層—5BG5/1青灰色砂質シルト、第8層—5BG3/0暗青灰色粘土質シルト。植物遺体を含む。

6.まとめ：今回の調査では現地表下約0.8～1.3m(T.P.+8.8～9.3m)間で、中世頃に比定されると思われる土器の小破片を数点検出したが、遺構は検出されなかった。地層で言うところの第3・4層にあたるところであるが、これらの堆積層には人為的な攪拌が見られることから、耕作土であることが想定される。当地より北東および東方で実施された本格的な発掘調査では、鎌倉～室町時代にかけての井戸・柱穴・土坑といった居住域に関連した遺構・遺物が多数検出されている。しかし、今回の調査も含め当地周辺で実施された既往の遺構確認調査を見る限り、当該期に相当するところはいずれも遺構・遺物は希薄であり、どちらかというと生産域あるいは空閑地であったことが考えられる。また、今回の調査では中世より以下の下層部分(T.P.+7.7～8.8m間)については、遺物は皆無で水成層や植物遺体の状況から湿地帯であったことが言える。

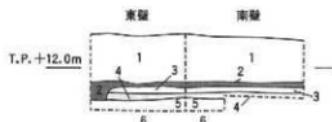


第18図 地層断面図 (S=1/100)

13 太田遺跡(2003-400)の調査

1. 調査名：店舗建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市若林町3丁目1、2-2、3
-2の各一部
3. 調査期間：平成16年5月21日
4. 調査方法：浄化槽部分に2.5×2.5mの調査区を設定。標高は隣接する下水道工事(15-30工区)のKBM1(T.P.+12.737m)を使用。

5. 調査概要：現地表下約1.5mまでに6層の堆積を確認した。1層(層厚0.8～1m)は盛土で、工場跡地。2層(層厚0.1m)は旧耕土、昭和前半ごろまで水田耕作土と思われる。3層(層厚0.1～0.15m)は乳



第19図 地層断面図 (S=1/100)

灰茶色粘質シルトで、水山の床土。4層(層厚0.1~0.2m)は褐灰色粘質土で、砂礫(1~5mm)を少量含む層で、中世~近世の耕作土と思われる。上面は標高11.5mを測る。5層(層厚0.3m)は明茶灰色粘質土、6層は灰色微砂で地下水があった。

6.まとめ:今回の調査では遺構・遺物を確認することはできなかった。層位は当地から東側40mで行った当調査研究会太田遺跡第6次調査(OOT2003-6)で確認された上層部の地層とほぼおなじ堆積状況であった。遺構は近現在の耕作土で確認された溝のみで第3~5層は水平堆積である。また遺物を含む層はなかった。

(高萩千秋)

参考文献

- ・高萩千秋 2004「3.太田遺跡第6次調査(OOT2003-6)」『平成15年度 (財)八尾市文化財調査研究会事業報告』
財團法人八尾市文化財調査研究会

14 太田遺跡(2003-330)の調査

1. 調査名: 分譲住宅・共同住宅建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地: 八尾市太田新町3丁目90

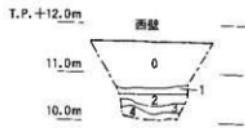
3. 調査期間: 平成16年6月10日

4. 調査方法: 洁化槽部分に規模2.5×2.5mの調査区を設定した。

標高については八尾市下水道が使用しているレベル高値(調査地

の南東側道路上:T.P.+11.684m)を使用した。

5. 調査概要: 現地表(T.P.+11.65m)下約1.7mまでに5層の堆積を確認した。0層は盛土。1層は10BG4/1暗青灰色粗粒砂混粘土で、旧耕作土である。2層は10YR6/6明黄褐色細粒~粗粒シルトで、マングン斑が認められる。3層は10YR6/1褐色細粒シルト質粘土。4層は10YR7/1灰白色粗粒シルトと細粒砂のラミナで、流水堆積である。遺構・遺物の検出はなかった。



第20図 地層断面図(S=1/100)

(西村)

参考文献

- ・亀島重則 1990「太田遺跡発掘調査概要」大阪府教育委員会
- ・中野篤史・西村公助 1996「IV.太田遺跡(第2次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告53』(財)八尾市文化財調査研究会

15 恩智遺跡(2004-15)の調査

1. 調査名: 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地: 八尾市恩智北町3丁目32-33-1・34-2

3. 調査期間: 平成16年4月20日

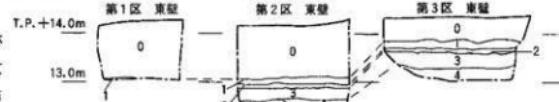
4. 調査方法: 建物基礎部分に3箇所【北から第1区(規模1.8×2.5m)、第2区(規模2.3×2.3m)、第3区(規模3.0×2.0m)と呼称】の調査区を設定した。レベル高については八尾市作成1/2500地図に記載されているレベル高値(調査地の北東側道路上:T.P.+14.2m)を使用した。

5. 調査概要: 【第1~3区】現地表下約2.0mまでに5層の堆積を確認した。0層は盛土。1層は10YR4/1褐灰色細粒砂混粘土で第3区の1層上面はT.P.+13.9m、第2・3区の1層上面はT.P.+13.1mを測る。2層は7.5YR6/2灰褐色細粒シルト質粘土。3層は5YR4/8赤褐色粘土質細粒砂。4層は2.5Y6/1黄灰色粘土質粗粒砂。5層は7.5YR4/2灰褐色疊混粘土質粗粒砂である。遺構・遺物の出土はなかった。

(西村)

参考文献

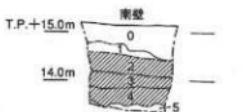
- ・西村公助 1992「IV.恩智遺跡(第5次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告34(財)
八尾市文化財調査研究会



第21図 地層断面図(S=1/100)

16 恩智遺跡(2003-473)の調査

1. 調査名：個人住宅建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市恩智中町2丁目248番地
3. 調査期間：平成16年4月22日
4. 調査方法：浄化槽部分に2m四方の調査区を設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.+15.2m)下約2mまでの掘削を実施した。



5. 調査概要：【層序】第0層—盛土、第1層—10YR4/3にぶい黄 第22図 地層断面図 ($S=1/100$)
褐色シルト。西側は削平される。第2層—5G2/1緑黒色砂礫混じりシルト、第3層—5B2/1青黒色砂礫混じりシルト、第4層—N2/0黒色砂礫混じり粘土質シルト、第5層—2.5Y7/4浅黄色砂質シルト。第1～4層まではすべて土壌化した地層で、各層ともに弥生時代中期頃と推定される土器片、およびサヌカイト製の石器が含まれる。第5層は遺物を含まない地層で、その上面には遺構の存在が想定される。

【出土遺物】第1～4層から出土した遺物の中で固化できたものは、壺7点(1～7)とサヌカイト片3点(8～10)である。壺はすべて生廻西麓産の胎土を有する。1は上下に肥厚する口縁端部を有する広口壺で、外面には刺突孔と彫描き縞状文が施される。2は肩部分にあたるもので、ヘラ彫き直線文を施す。3・5～7は底部のみ残存で、いずれも平底を呈する。また、6には底部穿孔が認められる。4は突出する高台状を呈するもので、外面はユビオサエとナデで調整する。

6.まとめ：今回の調査では、現地表下約0.5～1.6m(T.P.+14.6～13.5m)間の層厚約1mを測る地層から弥生時代中期頃と推定される遺物を検出した。遺物は小破片であるが、出土状況からは当該期のなかでも数時期にわたって連続と生活が営まれた様子がうかがえる。また、現地表下約1.7m前後(T.P.+13.5m)付近においては、当該期の遺構の存在を想定させる起伏を確認した。

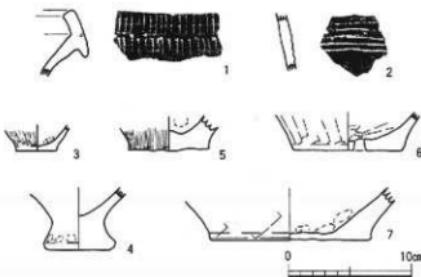
因みに当地点の西側においては、平成4年度に八尾市教育委員会が遺構確認調査を実施しており、弥生時代中期に比定される遺物とともに当該期の遺構が検出されている。今回の地点にも「天王の社」を中心とした同時期の集落跡の存在が追加されることとなった。(岡田)

参考文献

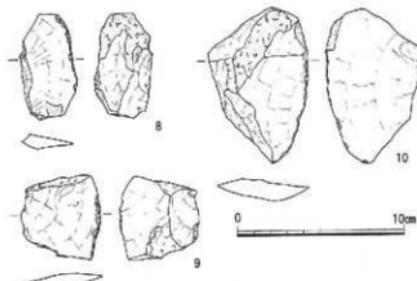
- ・吉田野乃 1993 「15. 恩智遺跡(92-352)の調査」『八尾市文化財調査報告27 平成4年度国庫補助事業』八尾市教育委員会
- ・森木めぐみ 2002 「VI. 恩智遺跡第11次調査(OJ 2001-11)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告75』財団法人八尾市文化財調査研究会

17 恩智遺跡(2003-442)の調査

1. 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市恩智北町4丁目510番1の一部



第23図 出土遺物実測図 I ($S=1/4$)



第24図 出土遺物実測図 II (石器 $S=1/3$)

- 調査期間：平成16年5月24日
- 調査方法：規模約1.2×1.2m、面積約1.44m² 1箇所について、現地表(T.P.+38.2m前後)下1.2m前後までを調査した。調査におけるレベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載のレベル高値を参考に、調査地北東部に位置するT字路中央をT.P.+40.0mと仮定し、これを使用した。
- 調査概要：現地表下1.2mまでは、客土・盛土であった。遺構・遺物の検出はなし。 (樋口 煙)

18 恩智遺跡(2004-201)の調査

- 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市恩智北町3丁目32番、33番1
- 調査期間：平成16年9月22日
- 調査方法：規模約3.0×3.0m、面積約9.0m² 1箇所について、現地表下2.5m前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載のレベル高値(調査地北東に位置する旧国道170号線の中央:T.P.+14.2m)を使用した。

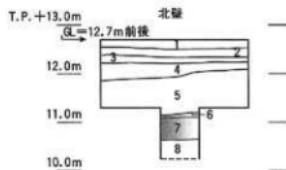
5. 調査概要：【地層】現地表下2.5m前後までに8層の地層を確認した。1層は現代の畑に伴う耕作土(層厚約0.2m)。2～5層は、黄褐色～黒褐色粘土質シルト～粗粒砂である。1～5cmの角礫が混在する地層で、東から西に向かって若干高度を下げながら堆積している。生駒山地西麓部に展開する扇状地に堆積した水成層と推測される。6層は黒色細礫混シルト質粘土～粘土質シルト。著しく土壤化を呈した地層である。遺物などは混在しないが、本層上面が一時期の生活面であった可能性は極めて高い。7層はオリーブ黒色細礫混粘土質シルト。6層に比べ土壤化の進行は鈍い。8層は灰色粗粒砂～細礫。2～5層同様、扇状地性の堆積物と推測される。

【検出遺構・出土遺物】なし。

6. まとめ：特筆すべき成果として、現地表下1.5m前後で検出した6層に注目したい。管見によれば、近鉄恩智駅東側で実施された当調査研究会第14次調査で検出の弥生時代中期の土壤化層に類似する。したがって、本地層上面を追いかけていけば、遺構が検出される可能性が極めて高い。今後、周辺で調査が行われる際には注意されたい。 (樋口)

参考文献

- 樋口 煙 2003「『恩智遺跡第14次調査(O-1)2003-14』」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告78』 (財)八尾市文化財調査研究会



第25図 地層断面図 (S=1/100)

19 恩智遺跡(2004-172)の調査

- 調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市恩智北町1丁目16番
- 調査期間：平成16年12月24日
- 調査方法：調査区3箇所(西から第1～3区)設定した。高さの基準は調査地東10mの藤田橋東詰(T.P.+12.1m)から移動した。
- 調査概要：各地区とも盛土直下に砂が堆積しており、底からの湧水が激しく、予定の深さ(第1・2区-1.5m、第3区-2.5m)までは掘削できなかった。砂層は東ほど厚く、砂層直下で確認した層は、第1区では粘土質シルト(102層)、第3区では粘土質シルトを含む極粗粒砂(305層)である。
- まとめ：今回確認した砂層は、固定される以前の恩智川



- 101 1095/6黄褐色粗粒砂 (鍛鉄鉱含む)
- 102 584/1暗青灰色土質シルト
(下部に極粗粒砂含む)
- 201 1097/3にぶい黄褐色粗粒砂
- 202 1095/6黄褐色粗粒砂
- 203 584/1暗青灰色極粗粒砂粘土質シルト
～砂質シルト
- 301 1095/6黄褐色粗粒砂
- 302 1097/3にぶい黄褐色粗粒砂
- 303 1097/3にぶい黄褐色粗粒砂
- 304 584/1暗青灰色砂質シルトのブロック
- 305 1097/1灰白色粗粒砂
- 305 584/1暗青灰色砂質シルト～極粗粒砂

第26図 地層断面図 (S=1/100)

流路に因るものと考えられる。過去に付近で検出されている弥生～古墳時代の生活面は、さらに下部に存在しているものと考えられる。

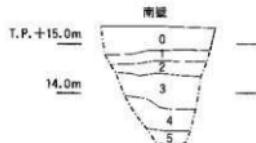
(成海)

参考文献

- ・田代克己ほか 1980『忍智遺跡Ⅰ』瓜生堂遺跡調査会
- ・高萩千秋 1989「忍智遺跡(第1次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告23
(財)八尾市文化財調査研究会

20 楽音寺(2004-188)の調査

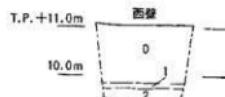
1. 調査名：個人住宅建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市楽音寺4丁目86番及び87番
3. 調査期間：平成16年8月17日
4. 調査方法：個人住宅建設予定の東部に2.5×2.5m規模の調査区を1箇所設定。
5. 調査概要：現地表下2.5mまでの間で6層(0～5層)の地質を確認した。0層は客土。層厚50～60cm。1層はN7/0灰色砂質シルト。作上層。2層は2.5Y7/4浅黄色砂質シルト。3層は5BG7/1青灰色粘土質シルト。グライ化が顕著で、西部にいくにつれて層厚が漸増している。4層は10YR3/1黒褐色粘土質シルト。植物遺体が優勢な不均質な層相である。近代遺物を含む。5層はN4/0灰色粘土。層厚30cm以上。粘性が強い。4層から近代の陶磁器、屋瓦、ガラス製品が出土している。
- 6.まとめ：当地付近には近代まで池が存在したことが確認されており、調査で確認した4層の層相がそれに対応するものと考えられる。



(原田)

21 木の本遺跡(2003-413)の調査

1. 調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市木の本1丁目3番2、3番4
3. 調査期間：平成16年6月17日
4. 調査方法：1.8m四方の調査区を1箇所設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.+11.1m)下約1.5mまでの掘削を実施した。
5. 調査概要：【層序】現地表下約1.3mまでは、以前の宅地開発に伴う盛土である。以下0.1m前後(T.P.+9.7～9.8m)は近現代に比定される耕作土、さらには下は緑灰色シルト(層厚0.2m以上)となる。
- 6.まとめ：今回の調査地の西側では、昭和57年度に当研究会による調査が実施されている。その結果、現地表下0.4～0.6m間で平安時代中期(10世紀頃)に比定される遺物包含層、さらにその下面で当該期の上師器皿、黒色土器柄等多量の遺物からなる土器溜め状遺構が検出されている。しかし、今回の調査では対象となる深度が、該期(平安時代中期)にまで達しなかった。それは盛土の厚さから勘案して、先の開発以後に実施された宅地化造成が要因となる。



(岡田)

22 久宝寺遺跡(2004-72)の調査

1. 調査名：店舗・立体駐車場建築に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市大阪逾華都市拠点土地地区画整理事業3街区2画地
3. 調査期間：平成16年6月1日
4. 調査方法：調査地の東部に3箇所(1～3区)、西部に2箇所(4・5区)の調査区を設定した。調査対象は、1～3区が現地表下2.3mまで、4・5区は現地表下1.3mまでである。高さの基準は北70mの仮ベンチマーク(T.P.+9.3m)から移動した。2区では、湧水のため危険な状態となつたため、4区では、調査区の北側2/3が深さ2m以上搅乱を受けていたため、部分的な調査しかできなかつた。

5. 調査概要：現地表面の高さはT.P.+9m前後を指し、0.8~1.0m程度の盛土・客土以下、旧耕土（I）に至る。1区では、旧耕土（I）直下に鳥糞盛土の可能性のある103層、以下に粘性の強い104・105層（III）がある。T.P.+7.4mで河川出土（IV）に達する。ここからの湧水が多い。2~5区では、旧耕土（I）以下にマンガン・鉄を含む褐色系の地層（II-断面図黒塗りの部分）があり、5区504層からは、布留傾向～布留式甕が出土した。T.P.+7.5mで河川出土（III）に達する。ここからの湧水はきわめて多い。

6. まとめ：2~5区のII層は、これまでに周辺で確認している古墳時代中期～平安時代頃までの土壤化層に対応するものである。東部の1~3区と西部の4・5区を比較すれば、西部の方が地層も厚く、安定して堆積しているようである。全域で確認したIII層は、古墳時代中期までに埋没した数条の河川であろう。（成海）



第29図 地層断面図（S=1/100）

23 久宝寺遺跡(2004-123)の調査

1. 調査名：店舗付共同住宅建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市大字龟井940-9（3街区第1画地）

3. 調査期間：平成16年7月1・2日

4. 調査方法：建物基礎部分に4.5×4.5mの調査区を3箇所、3.0×2.0mの調査区を1箇所、5.0×3.0mの調査区を1箇所設定した。調査順に南西側を第1区、北西側を第2区、南東側を第3区、北側を第4区、北東側を第5区と呼称する。高さは調査地の北側の道路（JR久宝寺駅南側東西道路）にある標高値（T.P.+9.291m）を使用した。

5. 調査概要：【第1区】現地表（T.P.+9.0m）下約4.7mまでに13層の堆積を確認した。0層は盛土で、1層は5B4/1暗青灰色細粒砂混粘土の旧耕作土である。2層は10YR5/8黄褐色細粒砂混粘土で、細粒シルトのブロックが混入する。3層は10YR4/4褐色粗粒シルト混粘土。4層は10YR3/4暗褐色粗粒シルト混粘土である。2~4層は上面が土壤化している。2層からは土師器、3層からは須恵器（1）が出土した。1は底部平底の鉢である。5層は2.5Y7/6明黄色粗粒シルト。6層5B5/1青灰色細粒砂混粘土で、上面は凸凹があり、攪拌を受ける。7層は、5B6/1青灰色細粒シルト。8層は5B3/1暗青灰色粘土。9層は10BG4/1暗青灰色細粒砂と粗粒シルトのラミナである。7層と9層は水成層。10層は5G2/1緑黒色粘土。11層は10BG2/1青黒色粘土で、上面は攪拌を受ける。12層は10BG6/1青灰色細粒シルトと細粒砂

のラミナである。近隣の調査結果から2～4層は古墳時代中期～江戸時代、6層は古墳時代前期(布留式期)、11層は古墳時代初頭の地層に相当すると考える。

【第2区】現地表(T.P.+8.8m)下約4.5mまでに13層の堆積を確認した。0層は盛土。1層は10YR2/1黒色細



第30図 出土遺物実測図 (S=1/4)

粒砂混粘土の旧耕作土である。2層は10BG4/1暗青灰色細粒砂混粘土。3層は10BG5/1青灰色細粒砂混粘土。4層は10YR7/8明黄褐色細粒シルト質粘土で、5層は10YR6/1褐灰色粘土である。4・5層はマンガン斑がみられ、上向は土壤化している。6層は10BG5/1青灰色細粒～粗粒シルトのラミナ。7層はN5/0灰色粘土で、植物遺体を含んでいる。8層はN3/0暗灰色粘土で、上面は攪拌を受けており水田であると思われる。9層は5B5/1青灰色細粒砂の水成層である。10層は5B6/1青灰色粘土。11層は5B3/1暗青灰色粘土で、植物遺体を含む。12層はN5/0灰色細粒～粗粒砂で水成層である。近隣の調査結果から4・5層は古墳時代前期(布留式期)、8層は古墳時代初頭、11層は弥生時代中期の地層に相当すると考える。

【第3区】現地表(T.P.+9.0m)下約4.3mまでに11層の堆積を確認した。0層は盛土。近世の井戸を検出した。検出した東西幅は約2.0m、南北幅は約1.0m、深さは約0.3mである。井戸枠には瓦を使用しており、枠の径は0.7mを測る。1層は7.5YR6/8橙色細粒砂混粘土で、マンガン斑がみられ粘土質細粒シルトのブロックが混入する。この層からは須恵器の壺(2)の破片が出土した。2の内面は同心円タタキ、外面は平行線タタキのち回転カキメを施す。2層は10YR7/6明黄褐色細粒シルト質粘土。3層は2.5Y7/6明黄褐色粘土質細粒シルト。4層は2.5Y6/1黄灰色粘土。5層は2.5Y7/1灰白色粗粒シルトの水成層。6層は5Y7/1灰白色粘土。7層は5Y3/1オリーブ黒色細粒シルト質粘土で、6・7層は上面に植物遺体を含み、攪拌を受ける。7層上面は凹凸が認められ、この凹凸は足跡と思われる。7層上面では埴輪を検出した。これらのことから6・7層は水田であると判断する。8層は10BG6/1青灰色細粒～粗粒シルトのラミナである。9層は10Y3/1オリーブ黒色粘土。10層は5B5/1青灰色細粒～粗粒砂のラミナ。近隣の調査結果から6・7層は古墳時代前期(布留式期)～古墳時代中期の地層に相当すると考える。

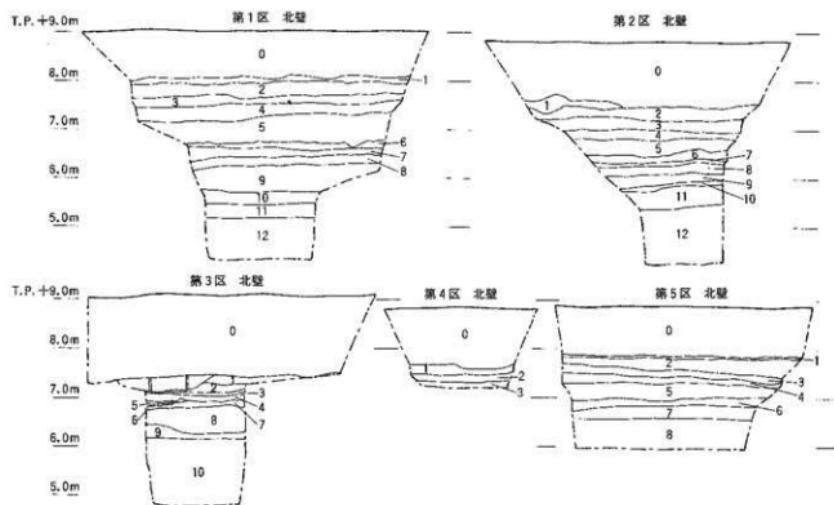
【第4区】現地表(T.P.+8.8m)下約1.6mまでに4層の堆積を確認した。0層は盛土。1層はN2/0黒色細粒砂混粘土の旧耕作土。2層は5B5/1青灰色粗粒砂混粘土。3層は5B6/1青灰色粗粒シルト質粘土である。近隣の調査結果から2・3層は古墳時代中期～江戸時代の地層に相当すると考える。

【第5区】現地表(T.P.+8.9m)下約3.0mまでに9層の堆積を確認した。0層は盛土。1層は5B4/1暗青灰色細粒砂混粘土の旧耕作土。2層は10YR4/4褐色細粒砂混粘土。3層は10YR6/1褐灰色細粒砂混粘土でマンガン斑がみられ、粘土のブロックが混入する。上面土壤化しており、土師器や瓦器の破片が出土した。4層は7.5YR4/2灰褐色細粒砂混粘土で、上面は土壤化している。5層2.5Y5/1黄灰色細粒～粗粒シルトのラミナ。6層は2.5Y6/1黄灰色細粒シルト質粘土。7層はN3/0暗灰色粘土で、細粒シルト質粘土上のブロックが混入する。上面は攪拌を受ける。8層は5B6/1青灰色細粒～粗粒シルトのラミナ。3層は出土遺物から鎌倉時代以降に相当する。また、4層は近隣の調査結果から古墳時代前期(布留式期)～鎌倉時代、7層は古墳時代前期以前の地層に相当すると考える。

6.まとめ：上記のことから、弥生時代や古墳時代初頭から江戸時代の遺構が今回の調査地にも存在している可能性が高いと思われる。
(西村)

参考文献

- ・原田昌則他 2001「久宝寺遺跡第24次発掘調査報告書」大阪奄美都市拠点地区竪草東西線3丁目の掘削工事に伴う」(財)八尾市文化財研究会報告69 (財)八尾市文化財研究会
- ・原田昌則他 2004「久宝寺遺跡(第28次調査)」「(財)八尾市文化財調査研究会報告77」(財)八尾市文化財研究会
- ・西村 歩他 2003『八尾市龜井地区所在 久宝寺遺跡・奄美地区発掘調査報告書V』大阪奄美都市拠点地区調整理事業(都市機能更新事業)に伴う発掘調査ー(財)大阪府文化財センター調査報告書 第103集 (財)大阪府文化財センター



第31図 地層断面図 ($S=1/100$)

24 久宝寺遺跡（2004-174）の調査

1. 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市南久宝寺1丁目23-2・3、
25-2～4

3. 調査期間：平成16年10月21日

4. 調査方法：分譲住宅建設予定地内に 2×2 m
規模の調査区2箇所を設定。北側を1区、南側を
2区と呼ぶ。

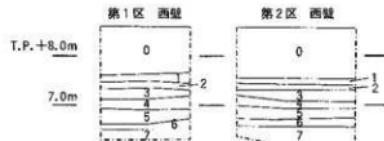
5. 調査概要：1区では現地表下2.3mまでの間で8層（0～7層）の地層を確認した。0層は客土。1層は旧作土。N4/0灰色砂質シルト。2層は酸化鉄斑が顕著な10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト。3層は酸化鉄斑・マンガン斑が顕著な2.5GY7/1明オリーブ灰色砂質シルト。4層はN6/0灰色粘土質シルト。5層は10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルト。6層は5Y6/1灰褐色シルト。7層は粘性が強いN4/0灰色シルト質粘土である。

2区では現地表下2.4mまでの間で8層（0～7層）の地層を確認した。1区とほぼ同様の層相が確認されており、1区と共に通する地層は1・3・4・5・7層である。2層はグライ化が顕著な10BG6/1青灰色砂質シルト。6層は10YR3/2黒褐色粘土質シルト。5・6層からは土器片が出土している。

6. まとめ：2区の5・6層から土器片が極少量出土しているが、小片のため時期は明確でない。調査地点の北西約200m地点で平成5年度に実施した第17次調査においては、T.P.+6.5～6.0m付近で弥生時代後期～古墳時代前期の遺物を含む地層（第8層）が確認されており、2区で検出した5・6層がそれに対応するものと推定される。
(原田)

参考文献

- ・岡田清一 1997「[II]久宝寺遺跡（第17次調査）」『(財)八尾市文化財調査研究会報告56』(財)八尾市文化財調査研究会



25 久宝寺遺跡（2004-269）の調査

1. 調査名：スポーツ練習場建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市北龜井3丁目（6街区1両地）

3. 調査期間：平成16年10月28日

4. 調査方法：スポーツ練習場建設予定地内に $2.3 \times 2.3\text{m}$ 規模の調査区2箇所を設定。北側の調査区を1区、南側の調査区を2区と呼称した。

5. 調査概要：1・2調査区の現地表下 $2.1\sim 2.3\text{m}$ までの間で3層（0～2層）の地層を確認した。

1区：0層は表土および擾乱層。層厚1.7m。旧建物の建築時および解体整地における擾乱層で、コンクリート片等を含む。1層は10GY8/1明緑灰色砂質シルト。一部のみ残存。人半が0層により削平を受けている。2層は10YR8/4浅黄橙色細粒砂～細粒砂で、ラミナの見られる河川堆積層である。層厚は0.4m以上である。

2区：0層は1区0層と同じ。層厚1.5～2.3m。1層は1区1層と同じ。2層は10GY8/1明緑灰色細粒砂～細粒砂。基本的には1区2層と同様の河川堆積層である。

6.まとめ：調査範囲内では、擾乱層が深層におよんでおり、上部層は既に削平された状況であった。1・2区で検出した河川に起因した堆積層の広がりは、調査地点の北部で行った第31次調査（KH99-31）で確認された古墳時代初頭面に対応する可能性が高い。（原田）

参考文献

- 西村公助 2000「14. 久宝寺遺跡第31次調査（KH99-31）」『平成11年度（財）八尾市文化財調査研究会事業報告』 財團法人八尾市文化財調査研究会

26 郡川遺跡（2003-369）の調査

1. 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

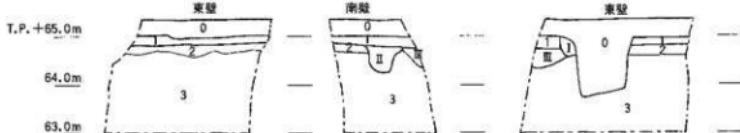
2. 調査地：八尾市黒谷6丁目171番地1

3. 調査期間：平成16年3月22日～5月27日・28日

4. 調査方法：【3月22日】 $5 \times 1.5\text{m}$ の範囲について調査（地層観察）を行った。

【5月27日・28日】西側に2m四方の調査区を1個所、東側に南北 $6.5\text{m} \times$ 東西 3.5m の調査区を1箇所の計2箇所の調査区を設定した。西側を第1区、東側を第2区と呼称する。なお、掘削深度については工事深度に準じ、第1区は現地表（T.P.+65.5m前後）約1.8m、第2区は0.8mまでを対象とした。

5. 調査概要：【3月22日】現地表下約2.4mまでに4層の堆積を確認した。0層は盛土。1層は7.5YR4/3褐色細粒砂混粘土で、須恵器・土師器の破片が出土している。2層は7.5YR5/2灰褐色粗粒砂混粘土で、弥生土器の破片が少量出土した。3層は10YR7/6明黄褐色細粒砂で、細砂が多く含む。1層上面から切り込む遺構の埋土はI層10YR4/2灰褐色細粒砂混粘土（炭化物含む）で、古墳時代後期以後に比定できる。2層上面から切り込む遺構の埋土はII層10YR3/4暗褐色粗粒砂混粘土とIII層7.5YR5/6明褐色粗粒砂混粘土で、弥生時代後期以後に比定できる。



第34図 地層断面図（S=1/100）

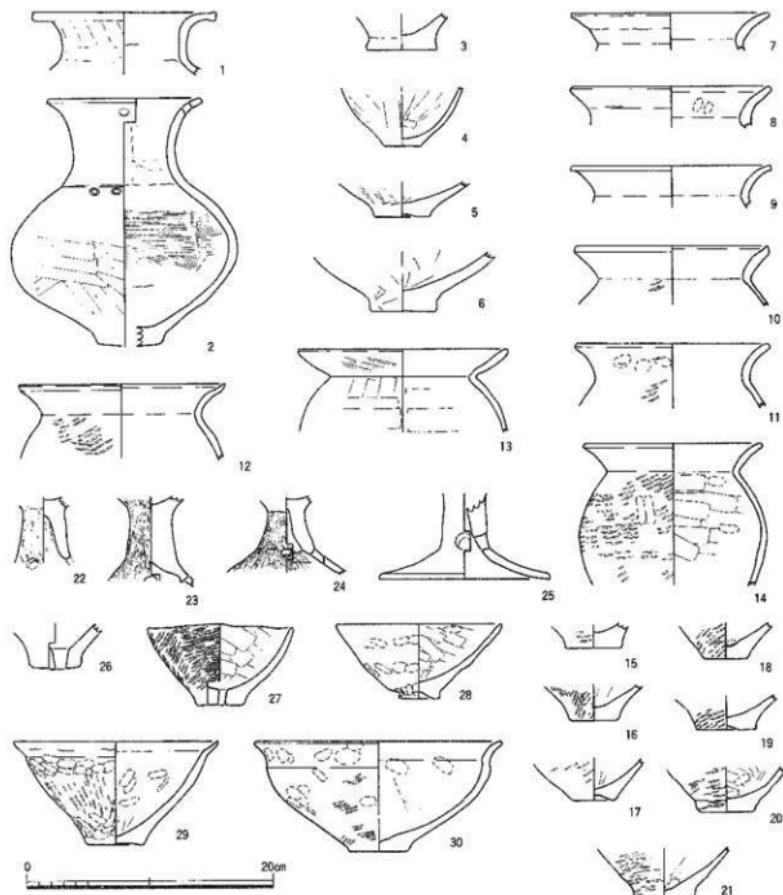
【5月27日・28日】<第1区>【層序】第0層—盛土。第1層—10YR4/6褐色砂礫混じりシルト。時期不明の瓦質土器片を含む。第2層—7.5YR3/4暗褐色シルト。占墳時代後期頃の須恵器片を含む。第3層—7.5YR3/1黒褐色シルト。弥生時代後期頃の土器類が多量に含まれる。第4層—10YR8/6黄橙色砂礫混じりシルト。弥生時代後期の遺構構築層にあたる。本層上面（T.P.+64.4m前後）で、弥生時代後期

の土坑2基(S K 101・102)を検出した。第5層-2.5Y8/4淡黄色中疊混じりシルト。径0.1~0.5mの様(花崗岩)を多量に含む。

【検出遺構・遺物】現地表下1.0m前後(T.P.+64.4m前後)のところで、弥生時代後期に比定される土坑2基(S K 101・102)を検出した。

S K 101 調査区の北西隅で東および南側の掘方の一部を検出した。北および西側は調査区外に至る。検出部分の法量は、南北1.0m、東西1.7m、深さ0.36mを測る。埋上は黒色粘土質シルト(a層)の單一層である。埋土内からは、弥生時代後期に比定される壺・甕・鉢の破片が出土したが、碎片のため図化はできなかった。

S K 102 調査区の南半部で北および西側の掘方の一部を検出した。南および東側は調査区外に至る。



第35図 S K 102出土遺物実測図 (S = 1/4)

検出部分の法量は、南北0.85m、東西0.23m、深さ0.3mを測る。埋土は(a層)一黑色粘土質シルト、下層(b層)一暗灰色粘土質シルトの2層に分層でき、下層(b層)には炭化物が含まれる。埋土内からは、弥生時代後期に比定される広口長頸壺(はば完成品)1点をはじめ、壺・甕・鉢の破片が多量に出土した。そのうち図化できたものは、壺6点(1~6)、甕15点(7~21)、高杯4点(22~25)、鉢5点(26~30)の計30点である。各遺物の法量等については観察表を参照されたい。

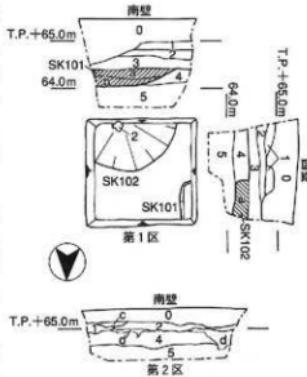
『第2区』【層序】第1区と異なるところは、第1層と弥生時代後期頃に比定される第3層が確認されないことが挙げられる。古墳時代後期頃に比定される第2層については同レベルで存在しており、当該期の遺構構築の際に弥生時代後期の堆積層が削平されたことが想定される。

【検出遺構・遺物】旧家屋基礎等のカクランにより、遺構は確認されなかった。遺物については、第2層から古墳時代後期頃に比定される須恵器の破片が数点出土した。

6.まとめ:今回の調査地の南側で実施された平成11年度市教委調査においても、弥生時代後期と古墳時代に比定される遺構・遺物が検出されている。今回の調査でも同様の遺構・遺物を検出したことから、当地一帯では少なくとも2時期の遺構面が存在することが判明した。
(西村・岡田)

表1 SK102出土遺物観察表(※法量の()は復元推定値)

No.	器種	法量(cm)	遺存部	調整および成形
1	広口壺	口径:(14.8)	口縁部1/4	口縁部(外)ヨコナデ、ヘラナデ(内)ヨコナデ、接合痕
2	広口長頸壺	口径:12.4 肩高:(20.4) 体部最大径:18.6 底径:(5.3)	底部全体と体部の 下半一部欠損	口縁部(外)ヨコナデ、穿孔(内)ヨコナデ、ハケナデ 頸部(内)接合痕 肩部(外)ハラミ文 体部(外)ヘラナデ・ヘラケズリ(内)ヘラナデ、接合痕
3	壺	底径:(5.6)	底部2/3	(内外)ナデ
4	壺	底径:2.9	底部のみ	(内外)ヘラナデ、ナデ
5	壺	底径:4.5	底部のみ	(外)ヘラナデのちハラミガキ(内)ヘラナデ
6	壺	底径:3.2	底部のみ	(内外)ヘラナデ
7	甕	口径:(16.0)	口縁部1/2	口縁部(内外)ヨコナデ(外)接合痕
8	甕	口径:(16.0)	口縁部破片	口縁部(外)ヨコナデ(内)ユビオサエのちヨコナデ
9	甕	口径:(16.2)	口縁部1/4	口縁部(内外)ヨコナデ
10	甕	口径:(15.6)	口縁~頸部のみ	口縁部(内外)ヨコナデ肩部(外)タタキ(内)ナデ
11	甕	口径:(15.5)	口縁部1/3	口縁部(外)ヨコナデ(内)ユビオサエのちヨコナデ
12	甕	口径:(16.8)	口縁~肩部破片	口縁部(内外)ヨコナデ肩部(外)タタキ(内)ナデ
13	甕	口径:(17.0)	口縁~肩部破片	口縁部(外)ユビオサエのちヨコナデ・接合痕(内)ヘラナデ 肩部(外)タタキ(内)ヘラナデ
14	甕	口径:(14.2) 体部最大径:(15.4)	口縁~体部1/3	口縁部(内外)ヨコナデ 頸部~肩部(内)接合痕 体部(外)タタキ(内)ユビオサエのちヘラナデ
15	甕	底径:4.4	底部のみ	(外)タタキ(内)ヘラナデ
16	甕	底径:3.4	底部のみ	(外)タタキ(内)ヘラナデ
17	甕	底径:3.2	底部のみ	(外)タタキ(内)ヘラナデ
18	甕	底径:3.3	底部のみ	(外)タタキ(内)ヘラナデ、ユビオサエ
19	甕	底径:4.8	底部のみ	(外)タタキ(内)ヘラナデ
20	甕	底径:4.4	底部のみ	(外)タタキ(内)ヘラナデ、ユビオサエ
21	甕	底径:(4.6)	底部1/2	(外)タタキ(内)ヘラナデ
22	高杯	残器高:5.4	脚柱部のみ	(外)ハラミガキ(内)シボリメ
23	高杯	残器高:7.5	脚柱部のみ	(外)ハラミガキ、穿孔(内)ヘラナデ
24	高杯	残器高:6.4	脚柱部のみ	(外)ハラミガキ、四方孔(内)シボリメ、ヘラミガキ
25	高杯	断径:(13.9) 残器高:7.0	脚部1/3	(内外)厚底で不明瞭、穿孔



第36図 地層図および平面図(S=1/100)

26	有孔鉢	底径:3.5 口径:(11.6) 器高:6.7 底径:3.4	底部のみ 2/3	(内外)ナデ、穿孔 (外)タタキ(内)ヘラナデ・底部穿孔
27	有孔鉢	口径:(13.4) 器高:6.2 底径:3.4	1/2	(内外)ユビオサエのちヘラナデ(外)接合痕
28	鉢	口径:(16.7) 器高:8.5 底径:4.4	1/2	口縁部(内外)ヨコナデ、(外)接合痕 体部~底部(外)ユビオサエ、タタキ(内)ユビオサエのちナデ
29	鉢	口径:(20.2) 器高:9.1 底径:4.7	1/3	口縁部(内外)ユビオサエのちヨコナデ 体部~底部(外)ユビオサエ、タタキ(内)ヘラナデ
30	鉢			

参考文献

- 滋 章 2001「6. 郡川遺跡(1999-627)」『八尾市内遺跡平成12年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告44 平成12年度国庫補助事業 八尾市教育委員会

27. 郡川遺跡(2004-176)の調査

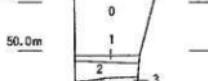
1. 調査名:個人住宅建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地:八尾市郡川4丁目190番、206番

3. 調査期間:平成16年8月13日

4. 調査方法:規模約1.5×1.5m、面積約2.25m²1箇所について、現地表下2.0m前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載のレベル高値(調査地西に位置する府道東高安停車場線の中央:T.P.+45.9m)を使用した。

T.P.+51.0m



第37図 地層断面図 (S=1/100)

5. 調査概要:【地層】現地表下1.4~1.5m前後までは現代の客土・盛土(0層)。以下現地表下2.0m前後までの0.5m間で3層の地層を確認した。1層は暗灰色シルト(グライ化)である。谷地形内に堆積した水成層の土壤化部分が本層に相当する。2層は暗オリーブ灰色シルト(グライ化)である。谷地形内に堆積した水成層である。3層は灰黒褐色細礫～中疊混シルトである。雲状の酸化マンガンの沈着が著しい。非常に硬く締まっている。地山層である。

【検出遺構・出土遺物】なし。

6. まとめ:今回の調査では、谷地形に堆積したと推測される水成層1・2層と地山層の3層を確認することができた。この谷地形は、郡川遺跡2002-65調査などで確認の谷地形と一連のものと思われる。この推測が可能ならば、本調査地周辺はこの谷地形の南斜面に位置する可能性が高い。(樋口)

参考文献

- 成海律子 2003「15. 郡川遺跡(2002-65)の調査」『八尾市内遺跡平成14年度発掘調査報告書』八尾市文化財報告48 平成14年度国庫補助事業 八尾市教育委員会

28. 郡川遺跡(2003-278)の調査

1. 調査名:分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

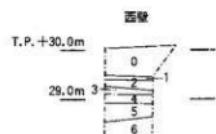
2. 調査地:八尾市郡川2丁目5番1、5番2

3. 調査期間:平成16年9月13日、10月22日

4. 調査方法:分譲住宅建設予定地の南西部に2×2m規模の調査

区1箇所を設定した。

5. 調査概要:現地表下1.9mまでの間で7層(0~6層)を確認した。0層は客土。層厚60cm。1層は旧表土。10YR6/1褐灰色砂質シルト。2層は10YR6/2灰黄褐色砂質シルトで、酸化鉄斑が認められる。3層以下は河川に起因した堆積層が連続して認められた。3層はN8/0灰白色細粒砂。4層は中疊を多く含む2.5GY7/1明オリーブ灰色細粒砂。5層は2.5GY8/1灰白色細粒砂～中粒砂。6層は上面に未分解



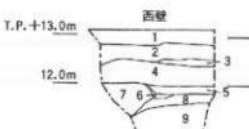
第38図 地層断面図 (S=1/100)

の植物遺体を含む10GY7/1明緑灰色極細粒砂（層厚40cm以上）で、50cm以上の岩石が散見された。遺物は2層および5層から須恵器の小片が極少量出土している。

6.まとめ：3層以下は河川に起因した堆積層が連続しており、河川ないしは谷状地形であったことが推定される。
(岡田)

29 郡川遺跡(2004-251)の調査

1. 調査名：長屋住宅建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市教興寺4丁目33
3. 調査期間：平成16年11月12日
4. 調査方法：調査地南部に2m四方の調査区を1箇所設定し、現地表(T.P.+13.1m前後)から約2mまでの掘削を実施した。
5. 調査概要：【層序】第1層—10YR2/1黒色シルト。現在の水田耕作土である。第2層—10YR6/2灰黄褐色シルト。現在の耕作地が形成される以前の盛土層であると思われる。第3層—7.5YR4/2灰褐色砂礫混じりシルト。調査区全域には広がらず、部分的に散在する地層で、古墳時代中期頃の遺物を少量含む。第4層—10YR3/1黒褐色シルト。やや締りのある堆積層で、一部に炭化物を含む。層内から弥生時代に比定される土器片のほか石器が出土した。第5層—10YR6/3にびい黄橙色粘土質シルト。調査区の北半部に見られる地層で、上部にはマンガンが少量沈着する。第6層—5YR5/1褐灰色シルト。植物遺体を若干含む。第7層—N3/0暗灰色砂礫混じりシルト。3~5cmの躙を多量に含む。調査区の南部では上層の第5・6層に切られる。第8層—10BG4/1暗青灰色砂質シルト。水成による堆積層で、締りは良くない。第9層—2.5GY5/1オリーブ灰色砂質シルト。第8層と同様に水成層で、本層からの湧水は著しい。



第39図 地層断面図 (S=1/100)

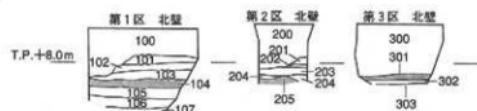
【検出遺構・遺物】遺構は確認できなかった。遺物は、第3層から古墳時代中期頃と見られる須恵器蓋杯の破片、第4層から弥生時代に比定される土器片数点が出土したが、図化は不能であった。

6.まとめ：当地の近隣では現在までのところ、考古学的な調査が実施されておらず、実態が不明であったが、今回の調査によって、現地表下0.6~1.3m(T.P.+11.8~12.5m)間に、弥生時代~古墳時代の遺物包含層の存在を確認することができた。
(岡田)

30 小阪合遺跡(2004-76)の調査

1. 調査名：老人ホーム建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市青山町3丁目80番
3. 調査期間：平成16年6月14日
4. 調査方法：調査区は3箇所(1~3区と呼称)。各調査区の平面規模は、1区：2.1×2.1m、2・3区：1.2×1.2mである。調査深度は、

現地表(T.P.+8.7~8.8m前後)下



第40図 地層断面図 (S=1/100)

1.2~2.1m前後までである。調査におけるレベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載のレベル高値(調査地北西部に位置するT字路中央:T.P.+8.6m)を使用した。

5. 調査概要：

【1区】現地表(T.P.+8.7m前後)下0.6~1.0m前後までは客土・盛土、および搅乱層(100層)。以下現地表下2.1m前後までの1.1~1.5m間で7層の地層を確認した。101~103層は灰色~オリーブ灰色細繅混粘土質シルトである。いずれも3~5cm大のブロックが混在する搅拌を受けた地層で、水田耕作土に相当する。この内101層は旧耕作土に相当する可能性が高い。104層は暗色細繅混粘土質シルトである。105層はグライ化の顯著なオリーブ灰色細繅混粘土質シルトである。106層はオリーブ灰色

色粘土質シルト～シルトで表層の酸化マンガンを多く含む。地層内には土師器や瓦器の細片が混在する。107層以下は、雲状の酸化マンガンを極めて多く含み、硬く締まった、にぶい黄褐色粘土質シルトである。本層上面が中世の遺構面に相当する可能性が高い。

【2区】現地表(T.P.+8.8m前後)下0.65～0.9m前後までは、客土・盛土、および擾乱層(200層)。以下現地表下1.2m前後までの0.3～0.5m間で5層の地層を確認した。201～204層は、オリーブ灰色～暗オリーブ灰色細縫混粘土質シルト～シルトである。いずれの地層も3～10cm大のブロックが混在しており、攪拌を受けている。中世以降の水田耕作土であろう。205層は暗オリーブ灰色細縫混粘土質シルト～シルト(3～5cm大ブロック混在)。104層同様の暗色帯と推測される。

【3区】現地表(T.P.+8.8m前後)下1.0m前後までは、客土・盛土、および擾乱層(300層)。以下現地表下1.2m前後までの0.2m間で3層の地層を確認した。301層はオリーブ黒色細縫混粘土質シルト。104、205層同様の暗色帯と思われる。302、303層は灰色粘土質シルト～シルトである。グライ化が顕著である。水成層か。

6.まとめ:今回の調査地に北接する地点で実施された当調査研究会第10次調査では、T.P.+7.1m前後で古墳時代前期の、同7.6m前後で中～近世の遺構群を検出している。したがって、当初、これらの遺構の南への広がりを想定していた。結果は上記通りである。まず古墳時代前期については、掘削深度の関係上、この時期の遺構面レベルに達していないため、詳細は不明である。一方、中世以降については、1区106層が中世の遺物を含む地層であることなどから、当該期の遺構面の広がりが予想される。しかし、調査面積が小さいことなどから、明確な遺構の検出は叶わなかった。(樋口)

参考文献

- 高萩千秋 1990「第4章 第10次調査」『小阪合遺跡一八尾市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査一』昭和61年度第8次 昭和62年度第10・13次 昭和63年度第16次調査報告(本文編)』財團法人八尾市文化財調査報告26 (財)八尾市文化財調査研究会

31 成法寺遺跡(2004-119)の調査

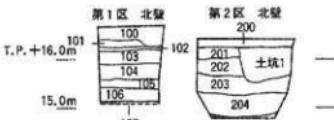
- 調査名: 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地: 八尾市南本町2丁目60番1・65番・66番2及び59番1・59番2・59番3・59番4・59番5・59番6・59番7・66番1・66番4の各一部
- 調査期間: 平成16年12月27日
- 調査方法: 人孔部分に2.0×2.0mの調査区を2箇所設定し調査を行った。東側を第1区、西側を第2区と呼称する。レベル高は調査地の北西側約50mにある道路上の標高値(T.P.+9.3m)を使用した。
- 調査概要: 【第1・2区】現地表下約2.0mまでに5層の堆積を確認した。0層は盛土で、厚さ約0.3mを測る。1層は10YR4/2灰黄褐色細粒砂混粘土で土師器・須恵器・瓦器などの破片を含む近世～近代にかけての整地層である。2層は10YR5/8黄褐色細粒砂、3層は7.5YR4/4褐色細粒シルトと粗粒シルトのラミナ、4層は10YR5/6黄褐色細粒砂と粗粒砂のラミナで、2～4層は河川堆積である。遺構の検出および遺物の出土はなかった。(西村)



第41図 地層断面図 (S=1/100)

32 神宮寺遺跡(2004-291)の調査

- 調査名: 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地: 八尾市神宮寺5丁目78・79の一部
- 調査期間: 平成16年11月10日
- 調査方法: 規模約1.5×1.5m、面積約2.25m²箇所(北から第1・2区と呼称)について、現地表



第42図 地層断面図 (S=1/100)

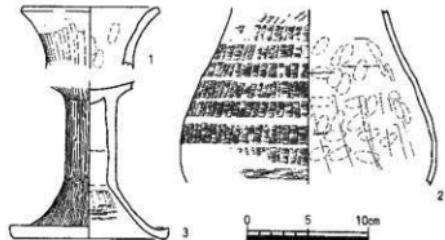
(第1区:T.P.+16.3m前後 第2区:T.P.+16.6~16.7m)下1.5m前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載のレベル高値(調査地の北西に位置する旧国道170号線と市道の交差点中央:T.P.+15.9m)を使用した。

5. 調査概要: 【地層】(第1区)現地表下0.3m前後までは、客土・盛土(100層)。以下現地表下1.5m前後までの1.2m間で7層の地層を確認した。101層は暗灰黄色極粗粒砂~細礫混粘土質シルト~極細粒砂で、旧耕作土に相当(層厚約0.15m)する。102層はにぶい黄褐色シルト~極細粒砂。雲状の酸化マンガンを多く含む。103・104層は灰黃褐色極粗粒砂~細礫混粘土質シルト~シルト。雲状の酸化マンガンを含む。105層は灰黃褐色極粗粒砂~細礫混シルト~極細粒砂。106層はグライ化の顯著な暗オリーブ灰色極粗粒砂~細礫混粘土質シルト~細粒砂。扇状地性の水成層と推測される。107層はグライ化の暗緑灰色極粗粒砂~細礫混粘土質シルト~細粒砂。非常に硬く締まっている。土壤化層である。

(第2区)現地表下0.2m前後までは、客土・盛土(200層)。以下現地表下1.5m前後までの1.3m間で5層の地層を確認した。201層は灰黃褐色極粗粒砂~細礫混粘土質シルト~細粒砂である。202層は暗オリーブ灰色極粗粒砂~細礫混粘土質シルト~細粒砂(グライ化)。203・204層はオリーブ灰色~緑灰色極粗粒砂~細礫混粘土質シルト~細粒砂。両層もグライ化が進む。扇状地性の水成層と推測される。205層は暗オリーブ灰色極粗粒砂~細礫混シルト~極細粒砂(グライ化)。上面は非常に硬く締まっている。土壤化層と推測される。本層内からは、弥生時代中期の土器が出土した。土坑1は断面でのみ確認した近・現代の穴である。埋土はオリーブ黒色中粒砂~10cm大の砾で、瓦やゴミが混在する。

【検出遺構】向区ともになし。

【出土遺物】第2区では、撿削時に古式土器細片が出土したほか、205層内より、弥生時代中期に属する土器が出土した。1は古式土器の広口長頸壺口縁端部~口頸部の細片である。口頸部は緩やかに外反し、端部には外傾の平坦面が見える。口縁部は横ナデを行い、口頸部外面は継位ハケナデ後継位ミガキを施す。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)を呈し、胎土には極粗粒砂~1mm大の細礫が少量含まれる。2・3は弥生時代中期(河内IV-2様式)に属するものである。2は広口長頸壺の口頸部~体部である。口頸部~体部上半部には簾状文が施される。簾状文は8条(12本/1条:原体幅は1cm)確認できる。なお、最上の簾状文のみ、左上がりに施される。体部最大径より下方には横位ミガキが見える。内面は指頭成形後、継位のナデや板ナデを行う。3は高杯の柱状部~縫端部細片である。中空の柱状部は直線的に垂下する。据部は若干外反気味に開き、端部には内傾のにぶい平坦面が見える。調整は、外面が継位ミガキ、縫部内面が指頭成形後横位ミガキを施す。縫端部は両面ともに横ナデ。2・3ともに色調は暗灰色(2.5Y5/2)を呈し、胎土には極粗粒砂~3mm大の細礫が含まれる。また角閃石が多量に混在する。生駒山地西麓産の土器である。



第43図 地層内出土遺物実測図 (S=1/4)

6.まとめ: 今回の調査では、第2区205層内より出土した弥生時代中期の土器が特筆される。これらの遺物は、①密集した状態で出土している、②土器は磨滅を受けていない、などの特徴を有することから、これらの土器が当該期の遺構に伴う遺物であった可能性が高い。今回の調査地の南約130mで実施された当研究会第1次調査では、弥生時代中期~後期の土器梢をはじめとする遺構群を検出しており、これらの遺構群の北への広がりを肯定し得る結果として注目したい。

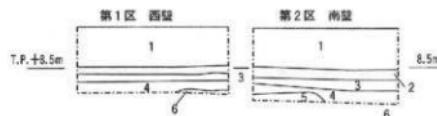
(植口)

参考文献

- 岡田清一 1997「三神宮寺遺跡(第1次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告57』(財)八尾市文化財調査研究会

33 太子堂遺跡(2004-183)の調査

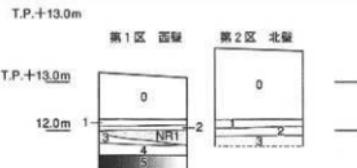
- 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市太子堂4丁目16-1の一部、16-3の一部
- 調査期間：平成16年8月18日
- 調査方法：建物基礎部分に2箇所の調査区を設定した。なお、調査区は北を第1区、南を第2区と呼称した。規模はともに3×3mである。レベル高については八尾市作成1/2500地図9に記載されているレベル高値(調査地の東側道路上:T.P.+9.1m)を使用した。
- 調査概要：現地表下約1.6m前後まで掘削し、6層の堆積を確認した。1層は盛土(層厚80cm前後)。2層は旧耕作土(層厚15~20cm)。3層は暗青灰色粘土混シルト(層厚15~25cm)で、磨耗した土師器の小片を1片検出。4層は青灰色微砂混シルト(層厚10~25cm)。5層は明茶灰色粘土(層厚20cm)で、第1区のみ確認。6層は淡青灰色微砂(層厚10cm以上)である。なお、6層より地下水があり、これより以下の地層については安全面を優先して掘削を断念した。
- まとめ：今回の調査では、遺構の検出はなかったが、第2区で確認された5層は南東側に続く粘土層の高まりが見られた。また第3層には磨耗した土師器片が含まれていたが時期を特定するには至らなかった。周辺の調査から奈良時代の地層に想定されている。
(高萩)



第44図 地層断面図 (S=1/100)

34 大正橋遺跡(2004-164)の調査

- 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市太田8丁目16番1の一部
- 調査期間：平成16年10月22日
- 調査方法：規模約1.8×1.8m、面積約3.24m² 2箇所(北から第1・2区と呼称)について、現地表(第1区:T.P.+13.1~13.2m 第2区:T.P.+13.6~13.7m)下1.8m前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載のレベル高値(調査地の北西に位置する市道T字路の中央:T.P.+12.9m)を使用した。



第45図 地層断面図 (S=1/100)

- 調査概要：【地層】(第1区) 現地表下0.9m前後までは、客土・盛土である。以下現地表下1.8m前後までの1.0m間で5層の地層を確認した。1層はグライ化の顕著な暗灰色粘土質シルトである。旧耕作土に相当(層厚約0.15m)する。2層はオリーブ灰色粘土質シルト。こちらも水田耕作土の可能性が高い。3層は灰黄褐色粘土質シルト。雲状の酸化鉄分を少量含む。4層は灰黄褐色粘土質シルトである。雲状の酸化鉄分を極めて多く含む。5層は灰色シルト質粘土～粘土質シルト。水田耕作土の可能性が考えられる。NRI 1は断面で確認したもので、3層上面から切り込む流路と推測される。ラミナ構造が見える灰色細粒砂～中粒砂で充填されている。(第2区) 現地表下1.4m前後までは客土・盛土である。以下現地表下1.8m前後までの0.4m間で3層(1~3層)の地層を確認した。なお、1~3層は、第1区の1~3層に対応する。

【検出遺構・出土遺物】第1区の断面観察において流路を検出した。遺物の出土はなし。

- まとめ：第1区3層上面で検出したNRI 1は、断面観察から復原すると、第1区の北部を南西-北東方向に伸びるとともに推測される。また第1区5層は、色調や粒度組成などから推測すると、水田耕作土の可能性が高い。なお、両者ともに、時期を確定し得る遺物の出土は皆無であった。
(樋口)

35 東郷遺跡(2004-16)の調査

1. 調査名：保育園建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市光町1丁目38

3. 調査期間：平成16年4月21日

4. 調査方法：建物基礎部分に $2.5 \times 2.5\text{m}$ の調査区を2箇所設定。南側を第1区、北側を第2区と呼ぶ。レベル高は調査地の南東側約200mにある大阪府下水道の標高値(T.P.+7.908m)を使用した。

5. 調査概要：【地層】現地表下約2.0mまでに5層の堆積を確認した。0層は盛土。1層は10Y5/1灰色細粒砂混粘土の旧耕作土である。2層は2.5Y6/1黃灰色細粒砂混粘土で、マンガン斑が多く認められた。3層は2.5Y7/4浅黄色細粒シルト混粘土。全体的に撲拌されており、中世の整地層と思われる。4層は10YR6/8明黄色粗粒砂混粘土で、第2区では上面から切り込む遺構を検出した。時期は平安時代後期頃に比定できる。5層は10Y7/1灰白色細粒シルト～細粒砂の河川堆積である。両調査区ともに上面から切り込む遺構を検出した。時期は古墳時代初頭頃に比定できる。

【第1区】5層上面から切り込む土坑1基(SK101)を検出した。SK101は遺構の南西側が調査区外に至るため形状・規模などの詳細は不明である。埋土は10YR4/4褐色細粒シルト混粘土で細粒砂のブロックが混入する。埋土からは古墳時代初頭の土器の破片が出土した。このうち図化し掲載したものは高杯の脚部(1)である。1は直線的に外へ開く脚部で、屈曲し直線的に広がる裾部がつくものと思われる。この他図化できなかったが、庄内式に比定できる壺の破片が出土した。内面ケズリ、外面タタキ(5本/cm)を施し、胎土には角閃石を含む。

【第2区】4層上面から切り込む土坑4基(SK201～204)を検出した。SK201・202は平面形状は円形で、直径約0.25mを測る。深さは約0.15mを測る。SK203は遺構の北東側が、SK204は北西側が調査区外に至るため、形状・規模などの詳細は不明である。SK201～204の埋土は10YR3/3暗褐色細粒砂混粘土で、土師器の破片が極少量出土した。

5層上面では東へ下がる落ち込みを南壁で確認した。

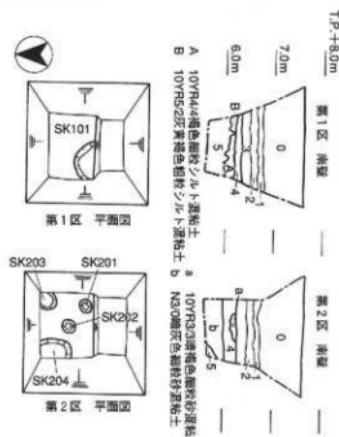
また、この調査区では機械で掘削したあげ土の中から、弥生時代中期前半頃の壺(2)、古墳時代初頭の壺(3)が出土した。2は外面に直線文と縦杉文を施す。3は口縁の形状が東部瀬戸内(讃岐か阿波)地方ものに似ており、搬入品の可能性が考えられる。

6.まとめ：今回の調査地では、古墳時代初頭と平安時代の遺構を検出した。同時期の遺構は北隣の調査地(第36次調査)と南隣の調査地(第44次調査)で検出しており、同時期の居住域が今回の調査地にも存在していることが確認できた。

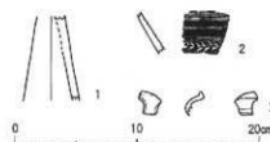
(西村)

参考文献

- ・成海佳子 1992 「Ⅷ. 東郷遺跡第36次調査(TG91-36)」『平成3年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財研究会
- ・坪田真一 1998 「Ⅱ 東郷遺跡(第44次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告61』(財)八尾市文化財調査研究会



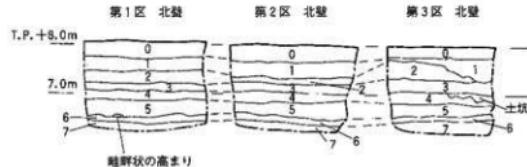
第46図 地層断面図・平面図 (S=1/100)



第47図 出土遺物実測図 (S=1/4)

36 東郷遺跡(2004-79)の調査

- 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市莊内町2丁目13-1、13-4、13-8、13-9
- 調査期間：平成16年7月8日
- 調査方法：人孔部分に2.0×2.0mの調査区を3箇所設定し調査を行った。レベル高は調査地の北西側約15mにある道路上の標高(T.P.+8.0m)を使用した。
- 調査概要：【地層】現地表面の標高はT.P.+8.0m前後を測り、深さ約1.8mまでに8層の堆積を確認した。0層は盛土。1層は10YR7/6明黄褐色細粒シルト質粘土、2層は7.5YR7/2明褐色粘土質細粒シルトで、土師器の破片が出土した。3層は7.5YR7/1明褐色粘土で、細粒シルト質粘土のブロックが混入する。マンガン斑があり、土師器の破片が出土した。4層は10YR6/2灰黄褐色粘土質細粒シルトで、植物遺体を含む。上面は土壤化している。5層は7.5YR5/1褐灰色細粒砂。6層は5YR6/1褐灰色細粒シルト質粘土で、細粒砂のブロックが混じる。7層は5B3/1暗青灰色粘土で、グライ化している。
【第1区】現地表下約1.0mの4層上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。周辺の調査結果から、4層は奈良時代～平安時代以前に比定できる。また、6層上面では疊状の高まりを検出した。埋土は10YR5/1褐灰色細粒砂混粘土である。6層上面は攪拌をうけていることから、水田の可能性が高いと考えられる。遺物の出土がなかった為、6層の時期は不明であるが、古墳時代以前に比定できる。
【第2区】第1区同様、現地表下約1.0mの4層上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。またこの調査区でも水田の可能性が高い6層を確認した。
【第3区】現地表下約1.0mの4層上面で調査を行い土坑を検出した。土坑は調査区外に広がるため形状、規模などの詳細は不明である。土坑の埋土は10YR4/4褐色細粒砂混粘土で、細粒シルト質粘土のブロックが混入し、炭化物も含んでいる。遺物の出土がなかった為、土坑の時期は不明であるが、上層の3層内に奈良時代～平安時代頃に比定できる土師器が出土していることから、奈良時代以前に比定できる。
また、第1・2区同様、この調査区でも水田の可能性が高い6層を確認した。(西村)



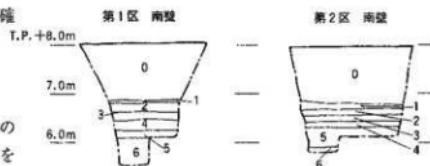
第48図 地層断面図 (S=1/100)

参考文献

- 高萩千秋 1993「X II 東郷遺跡(第39次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告39 (財)八尾市文化財調査研究会
- 高萩千秋 1998「X IV 東郷遺跡(第52次調査)」『財團法人八尾市文化財調査研究会報告60』財團法人八尾市文化財調査研究会

37 東郷遺跡(2004-141)の調査

- 調査名：事務所付住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市光町2丁目31-3
- 調査期間：平成16年7月14日
- 調査方法：建物基礎部分に2.5×2.5mの調査区を2箇所設定し調査を行った。北側を第1区、南側を第2区と呼称する。レベル高は調査地の北西側約30mにある道路上の標高



第49図 地層断面図 (S=1/100)

値(大阪府下水道使用ポイントT.P.+7.908m)を使用した。

5. 調査概要: 【第1・2区】現地表下約2.5mまでに7層の堆積を確認した。0層は盛土。1層はN3/0暗灰色粗粒砂混粘土の旧耕作土である。2層は5B5/1青灰色粗粒砂混粘土。3層は10YR6/2灰褐色細粒シルト混粘土で細礫を含む。第1区では土師器、第2区では瓦器、土師器が出土した。4層は10YR5/8黄褐色粗粒砂混粘土で、マンガン斑が認められる。細粒シルト質粘土のブロック混入。5層は10YR6/6明黄褐色細粒シルト質粘土。6層は10YR6/2灰褐色細粒砂～粗粒砂の水成層である。3層から5層上面は土壤化している。

6. まとめ: 今回確認した3層から5層までの地層は、周辺で行った過去の調査成果から検討すると、中世～弥生時代に比定できる。各層の上面には遺構が存在している可能性が高いと考えられる。(西村)

参考文献

- 西村公助 1989 「4 東郷遺跡 (第29次調査:光町2丁目28-1)」『八尾市文化財調査研究会年報 昭和63年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告25 (財)八尾市文化財調査研究会

38 東郷遺跡 (2004-128) の調査

1. 調査名: 専用住宅建設に伴う遺構確認調柶

2. 調査地: 八尾市北本町2丁目56番1の一部

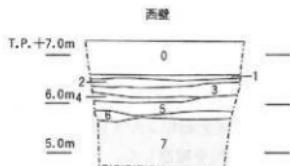
3. 調査期間: 平成16年8月12日

4. 調査方法: 専用住宅建設予定内に3×3m規模の調柶区1箇所を設定。調柶深度は当初、現地表下3mを想定していたが、現地表下1.6m以下で河川堆積層が確認され、その部分からの湧水が多大であったため安全面を考慮して現地表下2.6mまでの調柶とした。

5. 調柶概要: 現地表下2.6mまでの間で8層(0～7層)の地層を確認した。0層は客土。1層は10BG3/1青灰色砂質シルト。作土層。2層は2.5GY6/1オリーブ灰色砂質シルト。3層は5Y6/1灰色砂質シルト。4層は2.5GY7/1明オリーブ灰色砂質シルトで遺構になる可能性がある。5層は酸化鉄斑が顯著な10YR5/1褐色砂質シルト。瓦器焼片を含む鎌倉時代の包含層。6層は酸化鉄斑が顯著なN6/0灰色粘土質シルト。平安時代と推定される土師器、丸瓦片を極少量含む。7層は7.5GY7/1明緑灰色シルト～中粒砂。河川に起因した洪水砂層と推定される。層厚は1m以上が想定される。

6. まとめ: 調柶では、5層で鎌倉時代の遺物包含層と6層で平安時代の遺物包含層を確認した。7層は平安時代以前の自然河川に伴う堆積層である。

(原田)



第50図 地層断面図 (S=1/100)

39 東郷遺跡 (2004-226) の調柶

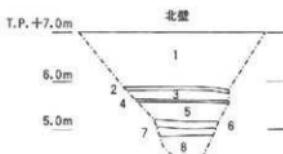
1. 調柶名: 店舗付住宅に伴う遺構確認調柶

2. 調柶地: 八尾市光町1丁目3-1、3-2、4-1、4-2、5-1、5-2

3. 調柶期間: 平成16年9月21日

4. 調柶方法: 建物基礎部分に1箇所調柶区を設定し掘削を行った。なお、調柶では既往建物基礎が残存しており、予定の設定位置よりやや東に調柶区(規模約1.5×4m)を設定して掘削した。

5. 調柶概要: 調柶区では、現地表下約2.6mまでに8層の堆積を確認した。第1層は盛土(層厚1.1m)。第2層は青灰色粘土質シルト(層厚0.1m)。第3層は淡灰色粘土(層厚0.2m)。酸化鉄・マンガン斑を含む。上面はT.P.+5.8mを測る。第4層は褐灰色砂礫(層厚0.1m)。第5層は灰色粘土(層厚0.4m)。酸化鉄・マンガン斑を少量含む。上面はT.P.+5.55mを測る。第6層は淡灰青色シルト(層厚0.2m)。



第51図 地層断面図 (S=1/100)

第7層は淡灰青色粘土（層厚0.2m）。第8層は青灰色シルト～細砂（層厚0.5m以上）。地下水有り。

6.まとめ：今回の調査では遺物の出土はなかった。遺構としては第2層が中世の水田耕作土と思われる。また、第5層についても水田耕作上の可能性が考えられるが時期など詳細は不明である。なお、第8層以下で地下水があり、危険と判断し、それより以下の掘削を断念した。
(高萩)

40 東郷遺跡(2004-300)の調査

1. 調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市本町1丁目80-3、82、83、84、85

3. 調査期間：平成16年12月6日

4. 調査方法：建物基礎部分に3.0×3.0mの調査区を2箇所設定し調査を行った。北側を第1区、南側を第2区と呼称する。レベル高は調査地の南東側約100mにある道路上の標高値(T.P.+8.7m)を使用した。

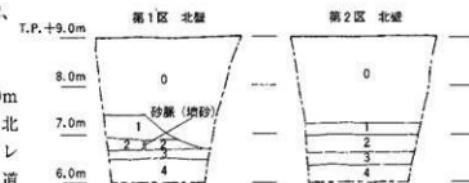
5. 調査概要：【第1・2区】現地表下約

3.0mまでに5層の堆積を確認した。0層は盛土で、厚さ約1.8~2.3mを測る。1層は10BG6/1青灰色粗粒砂、2層は5B6/1青灰色細粒シルト質粘土、3層は10BG7/1明青灰色細粒砂と粗粒砂のラミナ、4層は5B3/1暗青灰色細粒シルト質粘土で、1~4層は河川堆積と思われる。第1区の2層では縦方向に削れる砂脈(噴孔)を確認した。

6.まとめ：今回確認した河川堆積は、南側約50m地点で行った東郷遺跡第37次調査で検出した自然河川ENR-101(飛鳥時代中葉～奈良時代中葉)に比定できる。
(西村)

参考文献

・原田昌則 1999「Ⅱ東郷遺跡(第37次調査)」「(財)八尾市文化財調査研究会報告64」(財)八尾市文化財調査研究会



第52図 地層断面図 (S=1/100)

41 中田遺跡(2004-46)の調査

1. 調査名：個人住宅建設に伴う発掘調査

2. 調査地：八尾市刑部1丁目328番

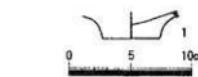
3. 調査期間：平成16年6月21・22日

4. 調査方法：宅地の東側に1.5×1.5mの調査地を1箇所設定し現地表から深さ約1.5mまで人力で、掘削し調査を行った。レベル高は、八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南東側道路上T.P.+10.4m)を使用した。

なお、本來、21日(月曜日)に調査を行う予定であったが、台風6号が通過し風雨が激しかった為、現場作業は22日へ順延となった。21日に行なった作業は調査地の設定だけである。

5. 調査概要：0層は盛土で、現地表面の高さは、T.P.+10.45mである。1層はN2/0黑色細粒砂泥粘土の旧耕作土である。2層は10BG5/1青灰色粗粒砂混粘土。3層は10YR5/1褐色粗粒砂混粘土でマンガン斑が確認できる。4層は5Y5/1灰色細粒砂泥粘土で細粒シルト質粘土のブロックが混入する。土師器・瓦器の破片が出上した。5層は5G3/1暗緑色細粒砂泥粘土で土師器・弥生土器(1)の破片が出上した。1は壺の底部で、弥生時代後期のものと思われる。

4層は中世、5層は古墳時代～弥生時代の地層であることが確認できた。周辺での過去の調査では中世や古墳時代～弥生時代の遺構・遺物を検出している(西村公助1996・西村公助2000)ことから、今回の調査地にも同時代の遺構が存在している可能性が高いと思われる。
(西村)



第53図 地層断面図 (S=1/100)

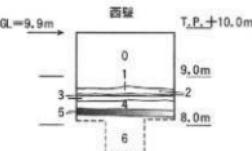
第54図 出土遺物実測図 (S=1/4)

参考文献

- 西村公助 1996 「V中田遺跡(第28次調査)」『中田遺跡(財)八尾市文化財調査研究会報告49』(財)八尾市文化財調査研究会
- 西村公助 2000 「Ⅲ中田遺跡(第36次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告66』(財)八尾市文化財調査研究会

42 中田遺跡(2004-135)の調査

- 調査名: 専用住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地: 八尾市中田3丁目39番6、39番7
- 調査期間: 平成16年8月2日
- 調査方法: 規模約 $2.5 \times 2.5\text{m}$ 、面積約 6.25m^2 1箇所について、現地表下 2.5m 前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載のレベル高値(調査地北東に位置する市道安中・教興寺線の中央: T.P.+9.7m)を使用した。
- 調査概要: 【地層】現地表下 1.1m 前後までは客土・盛土(0層) 第55図 地層断面図 ($S=1/100$) 層)。以下現地表下 2.5m 前後までの 1.4m 間で6層の地層を確認した。1層は暗灰色粘土質シルト～シルト。旧耕作土に相当する。2層はグライ化の顕著な暗オリーブ灰色粘土質シルト～シルトである。瓦器細片を含む。3層は暗オリーブ灰色粘土質シルト～シルト(グライ化)。4層はオリーブ灰色粘土質シルト(グライ化)である。5層はオリーブ灰色粗粒砂～細纖混粘土シルト～シルトで、雲状の酸化鉄分が多く含む点が特徴的である。2～3cm大のブロックが混在する非常に汚れた地層である。下層に存在する6層成層の土壤化部分に相当する。なお、3～5層内には土師器細片が混在する。6層はオリーブ灰色～灰オリーブ色シルト～粗粒砂である。成層で、下方に向かうにつれて、粒子組成は粗粒化し、湧水も激しさを増す。



【検出遺構・出土遺物】検出遺構はなし。出土遺物は、2層内から瓦器細片が、3～5層内から土師器細片が出土した。いずれも器種や時期の特定は不明である。

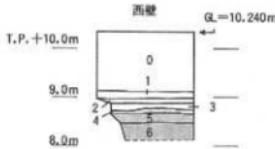
- まとめ: 今回の調査地の北西約50mで実施された八尾市教育委員会の調査(中田遺跡(63-020))では、中世の耕作に伴う地層を確認している。これらは、本調査地で確認した5層土壤化層上面に対応する可能性が高い。当該期の耕作地の南東への広がりを予想し得る成果として注目したい。 (樋口)

参考文献

- 青木勲等 1990「15. 中田遺跡(N.T.89-02)」『八尾市文化財調査研究会年報 平成元年度』財團法人八尾市文化財調査研究会報告28 (財)八尾市文化財調査研究会
- 近江後秀 1988「1. 中田遺跡(63-020)の調査」『八尾市内遺跡昭和63年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告20 昭和63年度国庫補助事業 八尾市教育委員会

43 中田遺跡(2004-160)の調査

- 調査名: 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地: 八尾市八尾木北2丁目18番1、18番2
- 調査期間: 平成16年9月30日
- 調査方法: 規模約 $2.0 \times 2.0\text{m}$ 、面積約 4m^2 1箇所について、現地表(T.P.+10.340m)下 2.2m 前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載のレベル高値(調査地北東に位置する市道T字路中央: T.P.+9.8m)を使用した。
- 調査概要: 【地層】現地表下 1.2m 前後までは、客土・盛土 第56図 地層断面図 ($S=1/100$)。以下現地表下 2.2m 前後までの 1.0m 間で6層の地層を確認した。1層はグライ化の顕著な暗灰色細



礫混粘土質シルトである。旧耕作土に相当（層厚約0.15m）する。2層は暗オリーブ灰色細礫混粘土質シルト～シルト。3層は褐灰色細礫混粘土質シルト～シルト。両層ともに水田耕作土の可能性が高い。4層は灰黄褐色シルト～極細粒砂である。2～3cm大のブロックが混在する地層で、土壤化が著しい。土師器や須恵器の破片が混在する。5層は黄褐色シルトの水成層である。雲状の酸化マンガンを含めて多く含む地層である。6層はオリーブ灰色を呈したシルト～細礫である。水平ラミナ構造をもつ水成層である。グライト化が著しい。

【検出遺構・出土遺物】検出遺構はなし。出土遺物は、1～4層内より、土師器や須恵器、瓦の破片が少量出土した。このうち、1～3層に包含されていた遺物については、本来は4層内に包含されていたものが、水田耕作等の擾拌により巻き上げられた可能性が高い。つまり、今回出土した遺物は、そのほとんどが4層内遺物と考えてよい。

6.まとめ：今回の調査地周辺では、西約50m地点で八尾市教育委員会による調査が行われている。ここでは、現地表下1.3m付近で古墳時代後期の遺物包含層（⑤層）を確認、当該期の居住域が付近一帯に展開している可能性を指摘（酒1991）している。この遺物包含層⑤層は、今回の調査の4層に相当する。4層上面を追いかけていけば、当該期の遺構を検出する可能性が極めて高い。（樋口）

参考文献

- ・酒 素 1991「22.中田遺跡(90-427)の調査」『八尾市内遺跡平成2年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市文化財調査報告22
平成2年度年度国庫補助事業 八尾市教育委員会

44 中田遺跡（2004-295）の調査

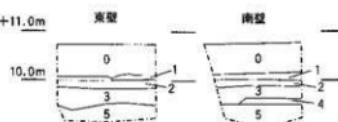
1. 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市刑部4丁目206番13・207番2
3. 調査期間：平成16年12月14日
4. 調査方法：建設予定地の南東部に2×2mの調査区1箇所を設定し、現地表下（T.P.+10.8m）以下約1.7mまでの削削を行った。

5. 調査概要：現地表下1.7m前後までに6層（0～6層）を確認した。0層は盛土で層厚65cm前後を測る。1層はN3/0暗灰色砂質シルトで旧作土である。2層は中疊を含む10YR7/3に近い黄褐色砂質シルトで、鎌倉時代の遺物を極少量含む。3層は上部を中心の中疊を含む2.5Y4/1黄褐色砂質シルトで、古墳時代後半に比定される土師器、須恵器の小片を少量含む。4層は2.5Y6/1黄灰中粒砂混砂質シルト。5層は2.5Y7/1灰白色中粒砂～粗粒砂の河川堆積層で、湧水が多大である。層厚は0.45m以上を測る。

6.まとめ：2層で鎌倉時代、3層で古墳時代後期の遺物を含む地層を確認した。5層以下は河川氾濫に起因した洪水砂が確認され、周辺で実施した第38次調査（NT97-38）と同様の成果が得られた。（原田）

参考文献

- ・樋口 素 2000「X中田遺跡第38次調査（NT97-38）」『（財）八尾市文化財調査研究会報告66』（財）八尾市文化財調査研究会



第57図 地層断面図（S=1/100）

45 水越遺跡（2004-37）の調査

1. 調査名：グループホーム建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市服部川5丁目7番1、13番、14番の一部、15番の一部
3. 調査期間：平成16年5月6日
4. 調査方法：建物基礎部分に3.0m×3.0mの調査区を2箇所設定した。南側を第1区、北側を第2区と呼称する。レベル高に



第58図 地層断面図（S=1/100）

ついては八尾市作成1/2500地図に記載されているレベル高値（調査地の北東側道路上：T.P.+20.4m）を使用した。

5. 調査概要：【第1区・第2区地層】現地表(T.P.+18.8m)下約2.8mまでに7層の堆積を確認した。0層は盛土。1層は7.5YR3/4暗褐色細粒砂混粘土で、マンガン斑が多く認められ、上面は土壌化している。第1区では上面から切り込む溝状の落込みを検出した。落込みは南東から北西方向に伸びている。埋土は10Y7/1灰白色細粒シルトと細粒砂のラミナで、遺物の出土はなかった。2層は10Y4/1灰色粘土。3層はN5/0灰色中礫～粗粒砂で、扇状地の谷部を埋める土砂の堆積と思われる。4層は7.5Y6/1灰色粗粒シルト。5層は5B3/1暗青灰色粗粒シルト質粘土。6層は5B4/1暗青灰色細粒砂である。（西村）

参考文献

・高荻千秋 1998「X遺跡水越遺跡第6次調査(MS96-6)」〔(財)八尾市文化財調査研究会報告60〕(財)八尾市文化財調査研究

46 美園遺跡(2003-487)の調査

1. 調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市美園町3丁目61番1

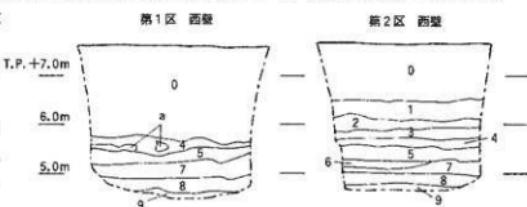
3. 調査期間：平成16年4月13日

4. 調査方法：建築予定地内に3m四方の調査区を2箇所(西側-第1区、東側-第2区)設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.+7.6m)下約3mまでの掘削を実施した。

5. 調査概要：【層序】第0層-盛土(層厚／第1区-2.0m前後、第2区-1.2m前後)。第1区では以下記述する第2区に存在する第1～3層の堆積層が、現代の削平によって消滅していた。第1層-7.5YR6/3にぶい褐色シルト。近世の瓦片が出土。第2層-10YR6/1褐色シルト。中世の土器類および瓦器の破片が少量出土。第3層-10YR7/2にぶい黄橙色シルト(層厚0.15～0.3m)。古墳時代中期～後期の所産と見られる須恵器片が出土。第4層-10YR6/1褐色板細粒砂(層厚0.1～0.3m)。氾濫性の堆積層で、第1区では流れ込みによる粘土のブロックが混入。第5層-7.5YR7/3にぶい桜色砂質シルト～極細粒砂。水成層でラミナが確認できる。第6層-10BG7/1明青灰色砂質シルト。第2区に存在する水成層である。第7層-5BG5/1青灰色シルト。植物炭化ラミナが顕著に見られる。第8層-N3/0暗灰色粘土質シルト。第9層-10BG4/1暗青灰色砂砾混じり粘土質シルト。全般に淘汰が不良である。

6. まとめ：今回の調査では遺

構は検出されなかった。しかし、第2区の現地表下1.2～1.8m(T.P.+5.7～6.5m)に堆積する地層については、古墳時代中期～中世にかけての遺物が含まれることと、周辺における既往の調査成果から、当該期の遺構の存在が示唆される。（岡山）



第59図 地層断面図 (S=1/100)

47 矢作遺跡(2004-85)の調査

1. 調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

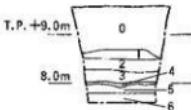
2. 調査地：八尾市高美町四丁目136-8

3. 調査期間：平成16年7月6日

4. 調査方法：建物基礎部分に2.0×2.0mの調査区を1箇所設定し調査を行った。レベル高は調査地の北西側約50mにある道路上

の標高値(T.P.+9.5m)を使用した。

5. 調査概要：【地層】現地表下約2.0mまでに7層の堆積を確認した。0層は盛土。1層はN3/0暗灰



第60図 地層断面図 (S=1/100)

色細粒砂混粘土の旧耕作土である。2層は10YR6/2が黄褐色細粒砂混粘土で、マンガン斑がみられ、粘土のブロックが混入する。3層は2.5Y6/1黄灰色粗粒砂混粘土で、マンガン斑がみられる。上面は攪拌されている。4層は5Y7/1灰白色細粒砂で、水成層である。5層は10Y5/1灰色粗粒砂混粘土で、シルト質粘土のブロックが混入している。瓦器(1)・土師器の破片が出土した。1は内面ミガキを雜に施し、外表面はナデによる指圧痕が見える。6層はN4/0灰色細粒～粗粒砂のラミナで、河川堆積と思われる。

第61図 出土遺物実測図 (S=1/100)

6.まとめ：近隣の調査結果(原田1989)では、現地表下約1.6m前後の地層から切り込む平安時代～鎌倉時代の遺構を検出している。このことから今回確認した第5層は同時代の遺構になる可能性が高いと思われる。

(西村)

参考文献

- ・原田昌則 1989「I 矢作遺跡(第1次調査)」「八尾市埋蔵文化財発掘調査概要 平成元年度」(財)八尾市文化財調査研究会報告22 (財)八尾市文化財研究会
- ・或海佳子 1989「II 矢作遺跡(第2次調査)」「八尾市埋蔵文化財発掘調査概要 平成元年度」(財)八尾市文化財調査研究会報告22 (財)八尾市文化財研究会

48 矢作遺跡(2004-154)の調査

1. 調査名：長屋住宅建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市高美町3丁目60番の一部

3. 調査期間：平成16年9月27日

4. 調査方法：規模約1.8×0.8m、面積約1.44m² 1箇所について、現地表下2.0m前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載のレベル高値(調査地南東に位置する(社)八尾納税協会前市道の中央；T.P.+9.5m)を使用した。

5. 調査概要：【地層】現地表下1.1m前後までは、客土・盛土。以下現地表下2.0m前後までの0.9m間で6層の地層を確認した。1層はグライ化の顕著な暗灰色細礫混粘土質シルト～シルトである。旧耕作土に相当(層厚約0.2m)する。2層は暗オリーブ灰色細礫混粘土質シルト～細粒砂。こちらも水田耕作土の可能性が高い。3層は灰色細礫混粘土質シルト～シルト。ブロック土で構成された地層で、その上面は南から北に向かって緩やかに高度を下げている。下層の4層を基盤層とした遺構の埋土の可能性が考えられる。4層は灰黄褐色粘土質シルトで、雲状の酸化マンガンを極めて多く含む。土壤化層である。5層は黒褐色シルト質粘土～粘土質シルト。こちらも4層同様雲状の酸化マンガンの沈着が激しい。6層は褐灰色シルト質粘土。閉塞した湿地帯のような環境下に形成された泥状の堆積物である。

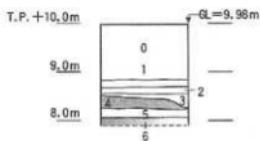
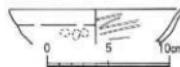
【検出遺構・出土遺物】なし。

6.まとめ：今回の調査地周辺を見ると、東約50m地点で実施された第1次調査地や、市道を挟んで南に隣接する地点で実施された第2次調査地が接する。両調査地では、T.P.+8.7～9.0m付近で弥生時代後期～室町時代の遺構を検出した。当然、今回の調査地でも当該期の遺構・遺物の検出が予想されたが、調査面積が僅少であったことなどから、明確な遺構の広がりを確認することはできなかった。なお、地層の対応関係を整理すると、第1・2次調査で確認された遺構面は、本調査における4層上面が対応する可能性が高い。

(樋口)

参考文献

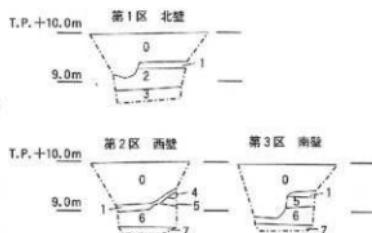
- ・原田昌則 1989「I 矢作遺跡(第1次調査)」「八尾市埋蔵文化財発掘調査概要 平成元年度」(財)八尾市文化財調



第62図 地層断面図 (S=1/100)

49 矢作遺跡 (2004-302) の調査

1. 調査名: 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地: 八尾市松山町2丁目30番及び31番
3. 調査期間: 平成16年11月19日
4. 調査方法: 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査。
- 2×2m規模の調査区3箇所を設定。西側から1~3区と呼称。
5. 調査概要: 1~3区の現地表下1.5m前後までの間で8層(0~8層)を確認した。
- 1区: 0層は客土で層厚0.55m。1層は旧作土で10YR3/1黒褐色砂質シルト。2層は10YR6/2灰黃褐色砂質シルトに10YR5/6黄褐色のブロック。縦まりの弱い不均質な層である。3層は2.5Y8/4淡黄色中粒砂を主体とする河川堆積。層厚0.25m以上を測る。



第63図 第1~3区地層断面図 (S=1/100)

褐色砂質シルトに10YR5/6黄褐色のブロック。縦まりの弱い不均質な層である。3層は2.5Y8/4淡黄色中粒砂を主体とする河川堆積。層厚0.25m以上を測る。

- 2区: 0層は客土で層厚0.85m。1層は旧作土。10YR3/1黒褐色砂質シルト。4層は中粒砂が混じる10YR4/2灰黃褐色砂質シルト。5層は中粒砂が混じる10YR5/2灰黃褐色砂質シルト。6層は10YR3/2黒褐色砂質シルト。層厚0.5m。よく縦まり安定した層相で、中世の土師器、瓦器の小破片を極少量含む。7層は10YR4/1褐灰色砂質シルト。6層と同様、中世の土師器、瓦器の小破片を極少量含む。
- 3区: 0層は客土および搅乱層。層厚0.55~1.10m。1層は旧作土で10YR3/1黒褐色砂質シルト。5層は中粒砂が混じる10YR5/2灰黃褐色砂質シルト。6層は10YR3/2黒褐色砂質シルト。層厚0.35m。中世の土師器片を含む。7層は10YR4/1褐灰色砂質シルト。
6. まとめ: 2区および3区では旧作土層以下、比較的安定した層相が確認された。6~7層からは時期を明確にできなかったが、中世時期の土師器、瓦器の小破片が極少量出土している。2~3区の北側に設置した1区では、河川堆積層である3層が確認できることから、敷地内の北部には中世時に河川が存在していたことが想定される。

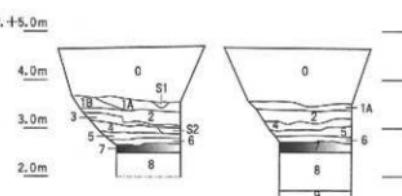
(原田)

50 山賀遺跡 (2004-124) の調査

1. 調査名: 配送センター建設に伴う遺構

確認調査

2. 調査地: 八尾市新家町4丁目1-1の一部
一部・6-1の一部
3. 調査期間: 平成16年8月11日
4. 調査方法: 規模約3.0×3.0m、面積約9m²2箇所について、現地表下3.0m前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載のレベル高値(調査地北東に位置する主要地方道路大阪中央環状線北行側道と市道西郡第25号線の交差点: T.P.+4.5m)を使用した。



第64図 地層断面図 (S=1/100)

5. 調査概要: 【地層】現地表下1.1m前後までは客土・盛土(0層)。以下現地表下3.0m前後までの1.9m間で9層の地層を確認した。1層は、緑灰色~暗緑灰色粘土質シルト~シルトで、搅拌とグラウト化が

著しい地層である。本層はさらに2層(1A・1B)に細分できる。旧耕土に相当する。2層は、オリーブ灰色粘土質シルトである。若干グライ化の進行した搅拌層である(水田耕作上)。3層は、浅黄色シルト。第1区にのみ確認できた地層である。4層は、灰褐色粘土質シルト～細粒砂。上面には遺構と推測されるS2が確認できた。5層は、灰黄褐色粘土質シルト。水成層である。6層は浅黄色粘土質シルト(水成層)。7層はにぶい黄褐色粗粒砂。一時期の流路の堆土である。8層は灰色シルト質粘土～粘土質シルトの互層である。湿地性の堆積物である。9層は灰色シルト～極細粒砂。こちらも水成層である。

【検出遺構・出土遺物】なし。

(橿口)

51 弓削遺跡(2004-259)の調査

1. 調査名：エレベーターホール建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市志紀町南2丁目131

3. 調査期間：平成16年11月4日

4. 調査方法：建築予定地内に2.5m四方の調査区を1箇所設定し、現地表(T.P.+13.9m前後)下約2.3mまでの掘削を実施した。

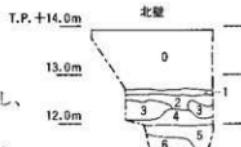
5. 調査概要：【層序】第0層-盛土、第1層-N2/0黒色シルト。

近・現代の作土層にある。第2層-7.5GY6/1灰緑色砂質シルト、第65図 地層断面図(S=1/100)第3層-2.5Y8/1灰白色～2.5Y8/6黄色中粒砂。洪水砂と推定されるが、遺物は含まれない。第4層-N6/0灰色シルト。一部に植物ラミナが見られる。第5層-N3/0暗灰色粘土質シルト。古墳時代前期に比定される古式土師器を少量含む。第6層-7.5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルト。上層の第5層と同時期頃の古式土師器片が少量出土した。

【検出遺構・遺物】遺構はなし。遺物は第5・6層から、古墳時代前期に比定される古式土師器が少量出土したが、碎片のため同化は不能である。

6. まとめ：今回の調査では現地表下約2.0～2.5m(T.P.+11.5～12.0m)において、古墳時代前期に比定される第5・6層の2層の堆積層を確認することができた。遺構は確認できなかったが、遺物の出土と周辺における既往の調査成果から当該期の遺構面が存在するものと思われる。

(岡山)





1 老原2003-249 調査地周辺(東から)



2 恩智2003-388 調査地周辺(北東から)



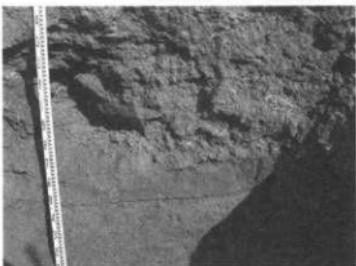
3 久宝寺2003-412 第1区全景(南から)



4 久宝寺2003-418 第1区全景(南から)



1 老原2003-249 南壁(北から)



2 恩智2003-388 北壁(南から)



3 久宝寺2003-412 第4区全景(南西から)



4 久宝寺2003-418 第2区全景(南西から)



5 久宝寺寺内町2003-357 第1区西壁(東から)



5 久宝寺寺内町2003-357 第2区北壁(南から)



6 東郷2003-368 第1区南壁(北から)



6 東郷2003-368 第2区北壁(南から)



7 東郷2003-464 調査地周辺(東から)



7 東郷2003-464 第1区全景(東から)



8 水越2003-356 調査地周辺(東から)



8 水越2003-356 第2区西壁(東から)



9 八尾寺内町2003-450 第1区西壁(東から)



9 八尾寺内町2003-450 第2区西壁(南東から)



10 弓削2003-319 調査地周辺(南東から)



10 弓削2003-319 東壁(西から)



11 跡部2004-34 調査地周辺(北西から)



11 跡部2004-34 第1区南壁(北から)



12 老原2004-26 調査地周辺(北西から)



12 老原2004-26 南壁(北から)



13 太田2003-400 挖削状況(南東から)



13 太田2003-400 全景(北から)



14 太田2003-330 調査地周辺(北から)



14 太田2003-330 西壁(東から)



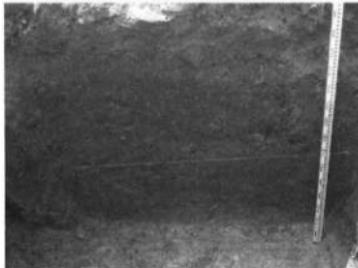
15 恩智2004-15 調査地周辺(南から)



15 恩智2004-15 第2区東壁(西から)



16 恩智2003-473 調査地周辺(北から)



16 恩智2003-473 南壁(北から)



17 恩智2003-442 調査地周辺(北東から)



18 恩智2004-201 全景(南西から)



19 恩智2004-172 調査地周辺(南東から)



20 楽音寺2004-188 調査地周辺(南東から)



17 恩智2003-442 南壁(北から)



18 恩智2004-201 北壁(南から)



19 恩智2004-172 北壁(南から)



20 楽音寺2004-188 南壁(北から)



21 木の本2003-413 調査地周辺(北から)



22 久宝寺2004-72 調査地周辺(南から)



23 久宝寺2004-123 調査地周辺(南西から)



24 久宝寺2004-174 第1区西壁(東から)



21 木の本2003-413 西壁(東から)



22 久宝寺2004-72 第1区南壁(北から)



23 久宝寺2004-123 第1区北壁(南から)



24 久宝寺2004-174 第2区西壁(東から)



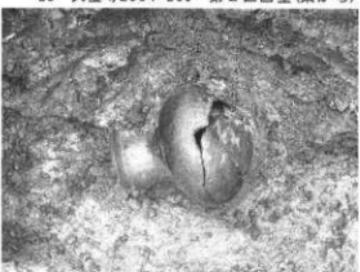
25 久宝寺2004-269 第1区西壁(東から)



25 久宝寺2004-269 第2区西壁(東から)



26 郡川2003-369 第1区全景(北から)



26 郡川2003-369 SK102遺物出土状況(北から)



27 郡川2004-176 調査地周辺(南東から)



27 郡川2004-176 北壁(南から)



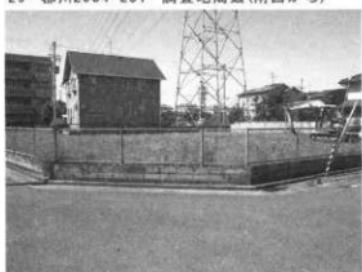
28 郡川2003-278 全景(東から)



28 郡川2003-278 西壁(東から)



29 郡川2004-251 調査地周辺(南西から)



30 小阪合2004-76 調査地周辺(北東から)



31 成法寺2004-119 第1区北壁(南から)



32 神宮寺2004-291 第1区北壁(南から)



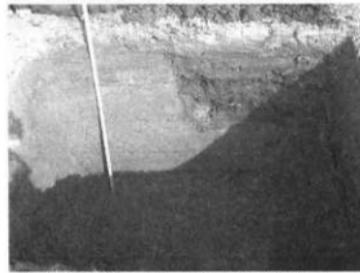
29 郡川2004-251 西壁(東から)



30 小阪合2004-76 第1区北壁(南東から)



31 成法寺2004-119 第2区北壁(南から)



32 神宮寺2004-291 第2区北壁(南から)



33 太子堂2004-183 第1区南壁(北から)



34 大正橋2004-164 第1区西壁(東から)



35 東郷2004-16 第1区全景(北から)



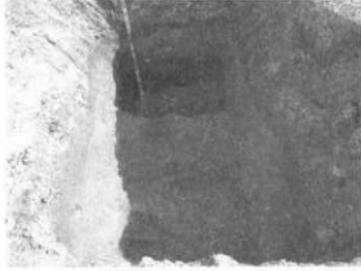
36 東郷2004-79 調査地周辺(南西から)



33 太子堂2004-183 西壁(東から)



34 大正橋2004-164 第2区北壁(南から)



35 東郷2004-16 第2区全景(北から)



36 東郷2004-79 第1区北壁(南から)



37 東郷2004-141 第1区南壁(北から)



38 東郷2004-128 調査地周辺(東から)



39 東郷2004-226 北壁(南から)



40 東郷2004-300 第1区北壁(南から)



37 東郷2004-141 第2区南壁(北から)



38 東郷2004-128 西壁(東から)



39 東郷2004-226 北壁(南から)



40 東郷2004-300 第2区北壁(南から)



41 中田2004-46 調査地周辺(北東から)



42 中田2004-135 調査地周辺(北東から)



43 中田2004-160 調査地周辺(北西から)



44 中田2004-295 調査地周辺(西から)



41 中田2004-46 北壁(南から)



42 中田2004-135 西壁(東から)



43 中田2004-160 西壁(東から)



44 中田2004-295 南壁(北から)



45 水越2004-37 調査地周辺(北西から)



46 美園2003-487 第1区西壁(東から)



47 矢作2004-85 調査地周辺(北西から)



48 矢作2004-154 全景(南東から)



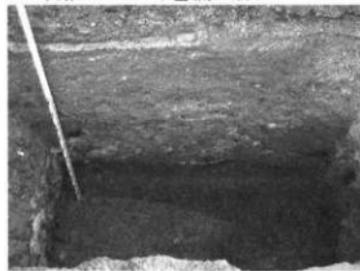
45 水越2004-37 第1区南壁(北から)



46 美園2003-487 第2区西壁(東から)



47 矢作2004-85 北壁(南から)



48 矢作2004-154 西壁(東から)



49 矢作2004-302 第2区西壁(東から)



49 矢作2004-302 第3区南壁(北から)



50 山賀2004-124 第1区西壁(東から)



50 山賀2004-124 第2区西壁(東から)



51 弓削2004-259 調査地周辺(南から)



51 弓削2004-259 北壁(南から)



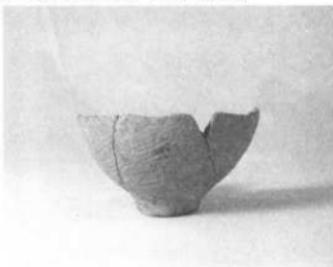
8 水越2003-356 出土遺物(4)



16 恩智2003-473 出土遺物(1)



26 郡川2003-369 出土遺物(2)



26 郡川2003-369 出土遺物(27)



16 恩智2003-473 出土遺物(7)



26 郡川2003-369 出土遺物(14)



26 郡川2003-369 出土遺物(30)



32 神宮寺2004-291 出土遺物(2)



32 神宮寺2004-291 出土遺物(3)

報告書抄録

ふりがな	やおしないいせきへいせい16ねんどはくつちょうさほうこくしょ						
費 名	八尾市内道跡平成16年度発掘調査報告書						
用 書 名	平成16年度国庫補助事業						
巻 次							
シリーズ名	八尾市文化財調査報告						
シリーズ番号	50						
講 著 者	岡山清一 高萩千秋 成海佳子 西村公助 原田昌則 橋口 篤						
編集機関	八尾市教育委員会						
所 在 地	〒581-0003 大阪府八尾市本町1丁目1番1号 ☎ 0729-24-8555						
発行年月日	西暦2005年3月31日						
所収跡名	所 在 地	コ 一 市町村 連番号	下 北 標準 地図 番 号	東 西 標準 地図 番 号	調査期間	調査面積 (m ²)	調 売 原 因
五 代 港	八尾市本町3	27212	36	34 36 12	135 36 13	2004/01/21	9 先代宅地建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町4	27212	30	34 36 10	135 37 48	2004/03/05	2,25 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
久 宮 家 通 東	八尾市本町1	27212	23	34 37 5	135 35 46	2004/03/09	16 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
久 宮 家 通 西	八尾市本町1	27212	23	34 37 19	135 35 33	2004/03/09	18 上層階改修に伴う遺構確認調査
久 宮 家 通 中	八尾市本町1	27212	29	34 37 28	135 35 31	2004/03/04	8 個人住宅建設に伴う遺構確認調査
久 宮 家 通 南	八尾市本町3	27212	29	34 37 28	135 35 31	2004/03/04	15 共同住宅建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1	27212	37	34 37 17	135 36 24	2004/03/20	27 有料老人ホーム建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町2	27212	37	34 37 17	135 36 22	2004/03/17	22,5 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1,2	27212	42	34 37 22	135 38 31	2004/01/15	22,5 グループホーム建設に伴う遺構確認調査
八 尾 市 内 町	八尾市本町1,2	27212	880	34 37 27	135 36 10	2004/03/19	25 先代宅地建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町2	27212	71	34 35 23	135 37 10	2004/01/23	9 仓库改修に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町3	27212	64	34 37 32	135 35 26	2004/03/07	8 貨物棧橋建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町3	27212	38	34 36 19	135 35 18	2004/03/06	9 個人住宅建設に伴う遺構確認調査
大 木 田	八尾市本町3	27212	68	34 35 21	135 35 18	2004/03/1	6,25 お隣改修に伴う遺構確認調査
大 木 田	八尾市本町4	27212	68	34 35 28	135 35 34	2004/01/06	6,25 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
大 木 田	八尾市本町5	27212	30	34 36 21	135 36 07	2004/04/20	15,79 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
大 木 田	八尾市本町6	27212	30	34 36 21	135 37 34	2004/04/22	4 個人住宅建設に伴う遺構確認調査
大 木 田	八尾市本町7	27212	30	34 36 25	135 38 18	2004/04/24	1,44 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
大 木 田	八尾市本町8	27212	30	34 36 22	135 38 06	2004/04/22	9 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町1	27212	30	34 36 23	135 37 50	2004/12/24	10,75 先代宅地建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町2	27212	51	34 38 24	135 38 26	2004/03/07	6,25 個人住宅建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町3	27212	35	34 35 56	135 35 27	2004/06/17	3,24 大同住宅建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町4	27212	23	34 37 04	135 35 19	2004/06/01	19,25 店舗・立体駐車場建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町5	27212	23	34 37 06	135 35 27	2004/07/02	81,75 店舗・駐車場改修に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町6	27212	23	34 37 06	135 35 33	2004/01/21	8 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町7	27212	23	34 37 16	135 35 33	2004/01/21	10,58 スーパー営業場改修に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町8	27212	60	34 36 58	135 36 40	2004/02/26	34,25 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町9	27212	60	34 37 02	135 38 36	2004/03/13	2,25 営業用住宅建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町10	27212	60	34 37 13	135 38 28	2004/03/13	4 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町11	27212	60	34 36 49	135 38 05	2004/11/2	4 反対側住宅建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町12	27212	40	34 37 15	135 36 56	2004/06/14	7,29 老人ホーム改修に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町13	27212	73	34 37 15	135 36 27	2004/12/27	8 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町14	27212	49	34 35 52	135 38 06	2004/11/30	4,5 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町15	27212	62	34 36 41	135 35 18	2004/08/18	16 先代宅地建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町16	27212	27	34 35 60	135 36 00	2004/04/22	6,48 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町17	27212	37	34 37 05	135 36 23	2004/04/23	12,5 保育園改修に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町18	27212	37	34 37 28	135 36 41	2004/07/08	12 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町19	27212	37	34 37 37	135 36 34	2004/07/14	12,5 事務所付住居改修に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町20	27212	37	34 37 44	135 36 16	2004/08/12	9 幕阜生医施設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町21	27212	37	34 37 53	135 36 25	2004/09/21	6 宿泊付住宅建設に伴う遺構確認調査
五 代 港	八尾市本町1町22	27212	37	34 37 26	135 36 12	2004/12/06	18 児童虐待施設に伴う遺構確認調査
中 田	八尾市本町1	27212	28	34 36 59	135 37 17	2004/02/22	2,25 個人住宅建設に伴う遺構確認調査
中 田	八尾市本町2	27212	28	34 38 51	135 36 52	2004/08/02	6,25 幼稚園付住宅建設に伴う遺構確認調査
中 田	八尾市本町3	27212	28	34 36 45	135 36 58	2004/09/30	4 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
中 田	八尾市本町4	27212	28	34 36 41	135 37 20	2004/12/4	4 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
中 田	八尾市本町5	27212	42	34 37 30	135 38 28	2004/03/06	18 グループホーム建設に伴う遺構確認調査
中 田	八尾市本町6	27212	34	34 38 06	135 35 46	2004/04/13	18 児童虐待施設に伴う遺構確認調査
中 田	八尾市本町7	27212	34	34 36 55	135 36 44	2004/07/05	4 幼稚園付住宅建設に伴う遺構確認調査
中 田	八尾市本町8	27212	74	34 36 45	135 36 42	2004/05/27	1,44 幼稚園付住宅建設に伴う遺構確認調査
中 田	八尾市本町9	27212	74	34 36 55	135 36 26	2004/11/19	12 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
中 田	八尾市本町10	27212	32	34 38 38	135 35 53	2004/08/11	9 駐玉センター 保育園付住宅建設
中 田	八尾市本町11	27212	71	34 35 93	135 37 07	2004/10/04	6,25 エレベーターホール建設に伴う遺構確認調査

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
1 老 爪 遺 跡	集落	平安～室町時代	—	—	
2 恵 伴 遺 跡	集落	—	—	—	
3 久 宝 寺 遺 跡	集落	—	—	—	
4 久 宝 寺 遺 跡	集落	古墳時代 飛鳥～奈良時代	柱穴 槽	十輪轂 細巻器	
5 久 宝 寺 内 司	集落	室町時代～近世	—	鐵器 瓦	
6 東 翠 遺 跡	集落	—	—	—	
7 東 部 遺 跡	集落	—	—	—	
8 水 間 遺 跡	集落	平安～鎌倉時代	—	土師器 瓦器 瓦	
9 八 尾 当 内 司	集落	—	—	—	
10 弓 利 遺 跡	集落	—	—	—	
11 鎮 郡 遺 跡	集落	古墳～室町時代	—	—	
12 老 爪 遺 跡	集落	—	—	—	
13 太 田 遺 跡	集落	—	—	—	
14 太 田 遺 跡	集落	—	—	—	
15 恵 伴 遺 跡	集落	—	—	—	
16 恵 伴 遺 跡	集落	弥生時代	—	弥生土器 石器	
17 恵 伴 遺 跡	集落	—	—	—	
18 恵 伴 遺 跡	集落	—	—	—	
19 恵 伴 遺 跡	集落	—	—	—	
20 集 合 遺 跡	集落	—	—	—	
21 木 の 木 遺 跡	集落	—	—	—	
22 久 宝 寺 遺 跡	集落	—	—	—	
23 久 宝寺 遺 跡	集落	古墳時代	—	須恵器	
24 久 宝寺 遺 跡	集落	—	—	—	
25 久 宝寺 遺 跡	集落	—	—	—	
26 邑 川 遺 跡	集落	弥生時代 古墳時代	土坑	弥生土器	
27 邑 川 遺 跡	集落	—	—	—	
28 邑 川 遺 跡	集落	—	—	谷地形 河川	
29 邑 川 遺 跡	集落	弥生時代 古墳時代	—	弥生土器 須恵器	
30 小 隅 合 遺 跡	集落	—	—	—	
31 成 法 寺 遺 跡	集落	—	—	—	
32 御 舊 寺 遺 跡	集落	弥生時代	—	弥生土器 十輪轂	
33 木 了 舎 遺 跡	集落	—	—	—	
34 大 正 善 遺 跡	集落	—	—	—	
35 東 部 遺 跡	集落	古墳時代 平安時代	土坑	弥生土器 土師器	
36 東 部 遺 跡	集落	奈良～平安時代	—	十輪轂	
37 東 部 遺 跡	集落	—	—	—	
38 東 部 遺 跡	集落	平安時代 鎌倉時代	—	土師器	
39 東 部 遺 跡	集落	—	—	—	
40 東 部 遺 跡	集落	飛鳥～奈良時代	河川	—	
41 中 田 遺 跡	集落	弥生～古墳時代	—	弥生土器 十輪轂	
42 中 田 遺 跡	集落	—	—	—	
43 中 田 遺 跡	集落	古墳時代	—	十輪轂 須恵器 丸	
45 水 間 遺 跡	集落	—	—	—	
46 美 陶 遺 跡	集落	—	—	—	
47 矢 作 遺 跡	集落	平安～鎌倉時代	—	瓦器	
48 矢 作 遺 跡	集落	—	—	—	
49 矢 作 遺 跡	集落	中世	—	十輪轂 瓦器	
50 山 賀 遺 跡	集落	—	—	—	
51 弓 附 遺 跡	集落	古墳時代	—	土師器	

八尾市文化財調査報告50
平成16年度国庫補助事業

八尾市内遺跡平成16年度発掘調査報告書

発行日 2005年3月31日

編集・発行 八尾市教育委員会

〒581-0003 八尾市本町1-1-1

TEL(0729)24-8555(直通)

印 刷 (株)近畿印刷センター

